ISSN 1883-2156

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報
２０２０

仙台市富沢遺跡保存館
SENDAI CITY TOMIZAWA SITE MUSEUM

仙台市縄文の森広場
SENDAI CITY JOMON SITE PARK

は　じ　め　に

地底の森ミュージアム（仙台市富沢遺跡保存館）は，2万年前の旧石器時代のたき火跡と森林跡を発掘したままの状態で保存・公開し，当時の景観を「氷河期の森」として野外に復元している施設です。平成8年に開館し，これまでに95万人を超える方々にご利用いただきました。また，姉妹館である仙台市縄文の森広場は，縄文時代の集落跡が発見された山田上ノ台遺跡を保存・活用する目的で，平成18年に開館し，これまでの体験学習活動を含めた利用者は40万人を超えました。

地底の森ミュージアムでは平成31年度・令和元年度の事業として，旧石器時代の常設展示のほか，特別企画展「センダイ　遺跡の記憶」など年4回の企画展，「氷河期の森」の維持管理をはじめとして，ミュージアムの特性を体感できる各種の講座や体験学習，季節ごとのイベント，仙台市縄文の森広場と連携して市内小・中学校を対象とした利用学習，職場体験，博物館実務実習などを開催しました。また，当館の特色でもある市民文化財研究員やボランティア育成などの事業，自主事業「親子でつくろう古代米」・「ミュージアム・シアター『狩人登場!!』」などを実施しました。さらに，ボランティア会と共催し，地域住民との交流を図る「地底の森フェスタ2019」を開催したほか，大学生のサポーターや市内高校生の活動協力を得ながら，館活動の展開を図っています。

仙台市縄文の森広場では，児童生徒やご家族連れが土器や勾玉づくりなどの多彩な体験活動に取り組んだほか，縄文文化に関する各種教室・講座など，市民参加による様々な事業を実施することができました。恒例となった季節ごとの縄文まつりでも，歴史的な空間の中で，地域の小・中学生や市民とともに楽しく有意義な交流を行うことができました。また，自主事業である「縄文のまつり復元と創造プロジェクト『縄文人の記憶の宴』」や「ドキ土器チョコレイト」・「土器を食べちゃえ！～土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう～」などを実施しました。

地底の森ミュージアムと仙台市縄文の森広場は，テーマミュージアムとしての専門性を深めるのみならず，運営懇談会を開催するなどして市民ニーズに対応した新たな取り組みを行い，「人間と環境」を考えるランドマークとなるような事業展開を目指します。また，先人の知恵に学ぶという観点から，両館が相互に補完し合う施設としてさらに連携，協力を図りながら，歴史を継承するための事業を進めてまいります。

今後も，歴史的資源としてのみならず，豊かな地域資源としての可能性を開発していくためにも，両館の事業展開に多方面の皆様方の益々のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年10月

仙台市教育委員会
　教育長　　佐々木　　洋

（公財）仙台市市民文化事業団
仙台市富沢遺跡保存館
仙台市縄文の森広場
　館　長　　身　崎　　尚

目　次

はじめに
目次
例言

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要 …… 1
2. 組織・運営 …… 1
3. 沿革 …… 2
4. 整備の目的と基本方針 …… 8

〔地底の森ミュージアム〕

1. 平成31年度・令和元年度事業報告 …… 12
   (1) 展示事業 …… 12
   (2) 普及啓発事業 …… 15
   (3) 調査・研究事業 …… 21
2. 施設管理 …… 21
   (1) 定例保守 …… 21
   (2) 建物・設備などの修繕 …… 21
3. 利用状況 …… 21
4. 入館者アンケート …… 23
5. 令和２年度事業計画 …… 24
   (1) 展示事業 …… 24
   (2) 普及啓発事業 …… 25
   (3) 調査・研究事業 …… 27
   (4) 縄文の森広場との連携事業 …… 27
   (5) 資料の収集・保管 …… 27
   (6) 管理運営 …… 28
   (7) 刊行物 …… 28
6. 利用案内 …… 28

〔仙台市縄文の森広場〕

1. 平成31年度・令和元年度事業報告 …… 30
   (1) 展示事業 …… 30
   (2) 普及啓発事業 …… 32
   (3) 体験活動事業 …… 37
   (4) ボランティア活動事業 …… 39
   (5) 調査・研究事業 …… 40
2. 利用状況 …… 41
3. 入館者アンケート …… 42
4. 令和２年度事業計画 …… 43
   (1) 展示事業 …… 44
   (2) 普及啓発事業 …… 44
   (3) 調査・研究事業 …… 45
   (4) 資料の収集・保管 …… 45
   (5) 管理運営 …… 45
   (6) 刊行物 …… 46
5. 利用案内 …… 46

例　言

1. 本書は，公益財団法人仙台市市民文化事業団が仙台市より指定を受け，平成31年度・令和元年度に実施した仙台市富沢遺跡保存館指定管理業務（仙台市縄文の森広場を含む）の各事業などに係る実施報告と，令和２年度事業計画である。
2. 本書の編集は地底の森ミュージアムの平塚幸人，仙台市縄文の森広場の武山剛久が行った。

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
開 館 日	1996年（平成8年）11月2日	2006年（平成18年）7月15日
設置場所	〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1	〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
敷地面積	14,263㎡	27,350.94㎡
延床面積	2,743㎡	1,211.78㎡
建築構造	地下1階 地上1階 鉄骨鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート造一部2階建
特　　徴	建物は，コンクリート打放しの楕円形をしている。周囲の壁は地下の遺跡の保存と公開のために，建物基礎を兼ねた厚さ80cmの連続地中壁であり，それを地下20mまで築いて地下水を遮断する構造である。 建物内部については，地下の遺跡展示室は柱のない広がりをもった大空間となっており，中地下も含めて，床にはアスファルトブロックが敷かれ，照明を抑えて清謐な雰囲気にしている。対照的に1階は床を板張りとし，自然光を取り入れた明るい空間となっている。中でも，来館者にとっては最後の空間となる展望ラウンジは窓を大きくとり，そこからは野外展示の氷河期の森が眺められるようになっている。	野外には，復元した竪穴住居3棟を中心にその他の遺構を表示し，環境とともに集落を再現した縄文ムラゾーンと，未調査区でイベントや発掘体験などを行う広場ゾーンがある。 その北側の一角に出土資料などを展示し，各種体験活動ができるガイダンス施設を付設している。

2. 組織・運営

両館の管理・運営は，仙台市より平成29年度から令和3年度までの5ケ年間の指定管理者に指定された公益財団法人仙台市市民文化事業団が行っている。令和2年4月1日時点の職員配置は下記のとおりである。

館長

地底の森ミュージアム
- 学芸室長
- 主　　事（学芸担当）
- 嘱託職員（学芸担当）
- 嘱託職員（学芸担当）
- 嘱託職員（事務担当）
- 臨時職員（学芸担当）
- 臨時職員（事務担当）

仙台市縄文の森広場
- 所　　長
- 主　　事（学芸担当）
- 主　　事（学芸担当）
- 嘱託職員（学芸担当）
- 嘱託職員（学芸担当）
- 臨時職員（学芸担当）
- 臨時職員（学芸担当）

なお，地底の森ミュージアムは受付・案内業務，常駐警備業務，清掃業務を，仙台市縄文の森広場は清掃および復元住居の火焚き業務を民間に委託している。

3. 沿革

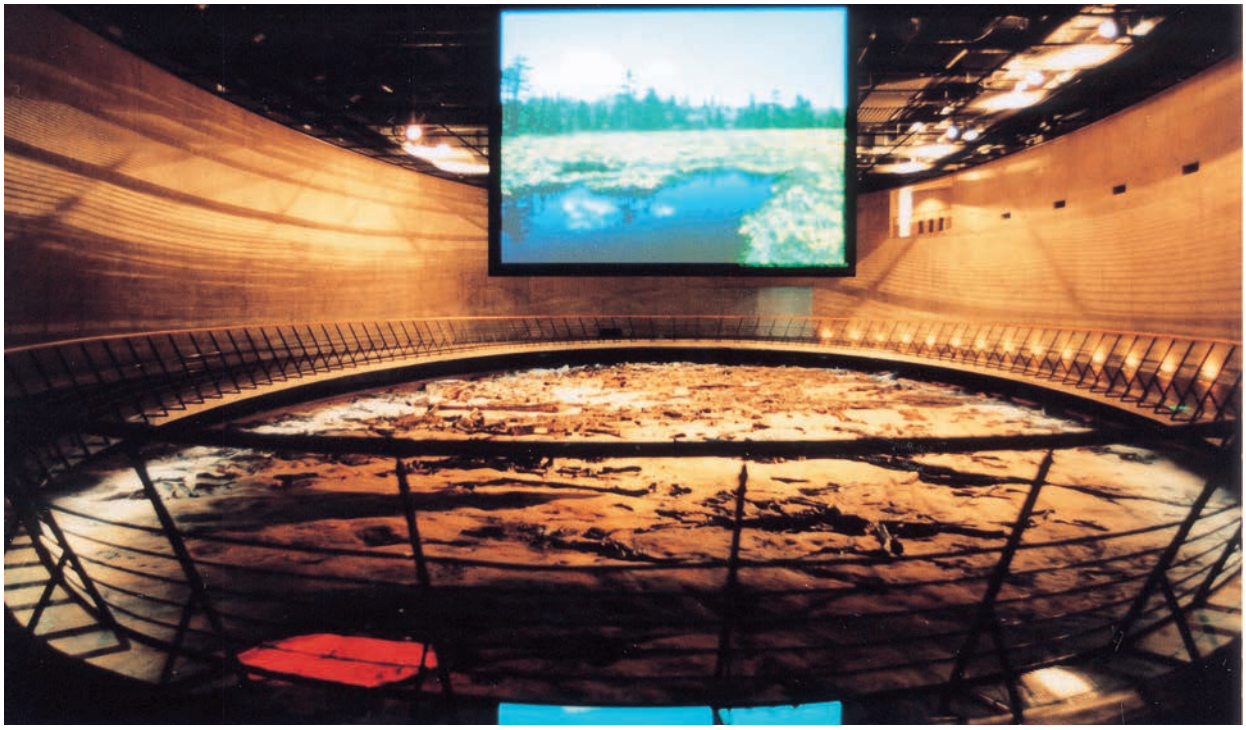
	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
1980年 昭和55年		宅地造成にともなう山田上ノ台遺跡の発掘調査で，縄文時代中期末を主とする竪穴住居跡などの多数の遺構が発見され，集落構造の全体がわかる遺跡の重要性から保存を決定する。 遺跡の活用を図るための「(仮称) 原始古代村構想」の検討がスタートする。
1982年 昭和57年	地下鉄建設にともなう試掘調査で富沢遺跡が発見される。	
1984年 昭和59年		旧石器時代資料の充実を図るために第2次調査を実施する。
1988年 昭和63年	富沢遺跡第30次発掘調査において2万年前の人類の生活跡と森林跡が発見され，仙台市は遺跡の重要性に鑑み，小学校の建設地を変更し保存と活用を決断。	
1989年 平成元年	保存科学・地質学・遺跡整備・都市工学・動物生態学など各界の学識者からなる基本構想策定委員会を設置し，富沢遺跡と山田上ノ台遺跡をともに活用する方針で「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備および仙台市考古系総合博物館基本構想報告書」を策定。	
1990年 平成2年	「基本構想」において検討課題であった遺跡の保存処理工法について「富沢遺跡保存技術調査報告書」(仙台市考古系総合博物館基本計画)を策定。	
1991年 平成3年	「(仮称) 原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定。	
1992年 平成4年	富沢遺跡保存館の建築基本設計，展示基本設計，富沢遺跡保存処理方式開発の業務委託，氷河期の森広場整備基本設計を行った。	
1993年 平成5年	富沢遺跡保存館の建築・展示実施設計，氷河期の森広場整備実施設計，遺構保存処理システム策定業務委託を行った。	
1994年 平成6年	富沢遺跡保存館の建設工事に着工。	
1995年 平成7年	正式名称が「仙台市富沢遺跡保存館」，愛称が市民公募をもとに「地底の森ミュージアム」と決定。	
1996年 平成8年	4月1日より富沢遺跡保存館の管理・運営は仙台市より委託された (財) 仙台市歴史文化事業団があたることとなり，その組織ができた。建築工事および展示工事が3月に完了。また，遺構保存処理作業は8月，「氷河期の森」の造成工事は8月，植栽工事は10月に完了。11月2日に開館する。	
1997年 平成9年	5月18日　天皇皇后両陛下ご来館。	
1998年 平成10年	3月7日　入館者10万人達成。	
2000年 平成12年	4月15日　入館者20万人達成。	山田上ノ台遺跡の活用整備のために「縄文の森広場基本計画策定委員会」が設置される。
2002年 平成14年	8月24日　入館者30万人達成。	第3次発掘調査により後期旧石器時代の石器が多数発見される。

2004年 平成16年	4月1日　管理・運営する（財）仙台市歴史文化事業団が（財）仙台市市民文化事業団に統合されたことにより，事業団が指定管理者となる。	「仙台市縄文の森広場」の建設工事が始まる。
2005年 平成17年	5月19日　入館者40万人達成。	
2006年 平成18年		「仙台市縄文の森広場」が完成。7月15日に開館する。
2007年 平成19年	9月11日　入館者50万人達成。	7月15日　開館1周年記念イベント開催（記念植樹や演奏会などで祝う）。
2009年 平成21年		5月4日　入館者10万人達成。
2010年 平成22年	6月12日　入館者60万人達成。	
2011年 平成23年	3月11日　東日本大震災により休館。	
	6月14日　再開。	4月12日　再開。
2012年 平成24年	4月1日　管理・運営する（財）仙台市市民文化事業団が公益法人となる。	
		8月7日　入館者20万人達成。
2013年 平成25年	9月14日　入館者70万人達成。	
2015年 平成27年		11月3日　入館者30万人達成。
2016年 平成28年	6月12日　入館者80万人達成。	
2017年 平成29年	2月18日・19日　地底の森ミュージアム 開館20周年・仙台市縄文の森広場 開館10周年を記念して，シンポジウムを開催。	
2018年 平成30年	9月22日　入館者90万人達成。	
2019年 平成31年		4月30日　入館者40万人達成。
2020年 令和2年	4月11日～5月17日　新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館	

地底の森ミュージアム　キャラクター
富沢博士

仙台市縄文の森広場　キャラクター
ハナちゃん

[地底の森ミュージアム]



地下展示室

外観

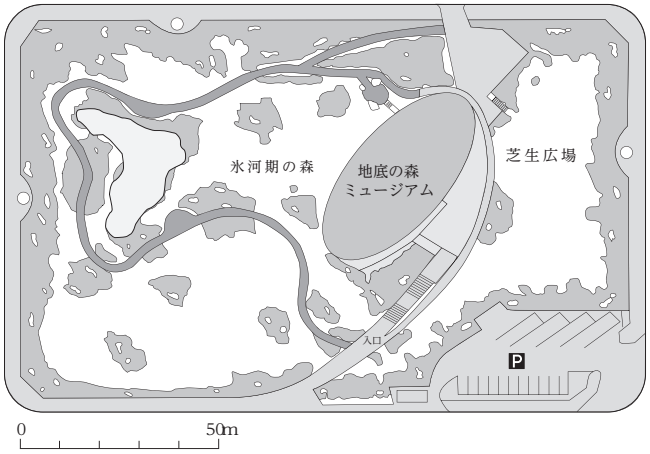
1階展示室

氷河期の森（春）

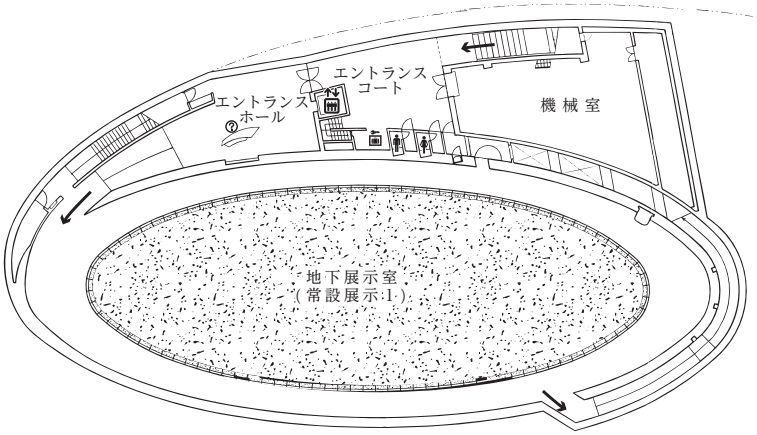
各室面積表

（㎡）

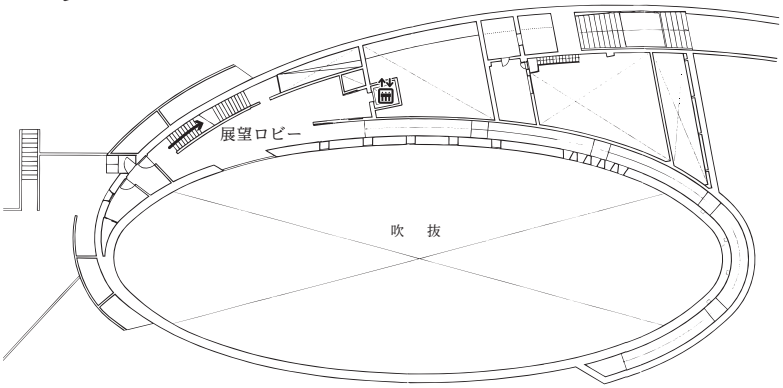
地　　下	・地下展示室（常設展示1） ・エントランスホール ・エントランスコート（半野外） ・トイレ ・倉庫 ・機械室 ・ＥＶシャフト ・その他	916 113 76 9 15 185 6 14
地　　下 中 地 下	・スロープ ・階段	124 31
中 地 下	・展望ロビー ・ＥＶシャフト ・その他	74 6 59
1　　階	・1階展示室 ・企画展示室 ・展望ラウンジ ・研修室 ・事務室・学芸室 ・収蔵庫 ・荷解室 ・自販機スペース ・ボランティア室 ・廊下 ・階段ホール ・トイレ ・エントランス ・守衛室 ・機械室 ・ＥＶシャフト ・その他	311 87 170 78 99 58 17 6 7 28 81 45 7 6 40 6 18
ピット階 （21㎡）		21
計		2,743㎡



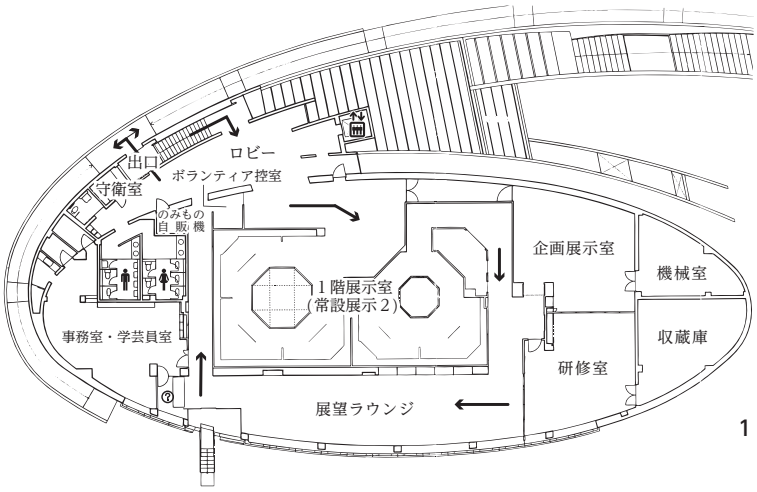
全　体　図



地下平面図



中地下平面図



1 階平面図

[仙台市縄文の森広場]

縄文ムラゾーンとガイダンス施設

展示室

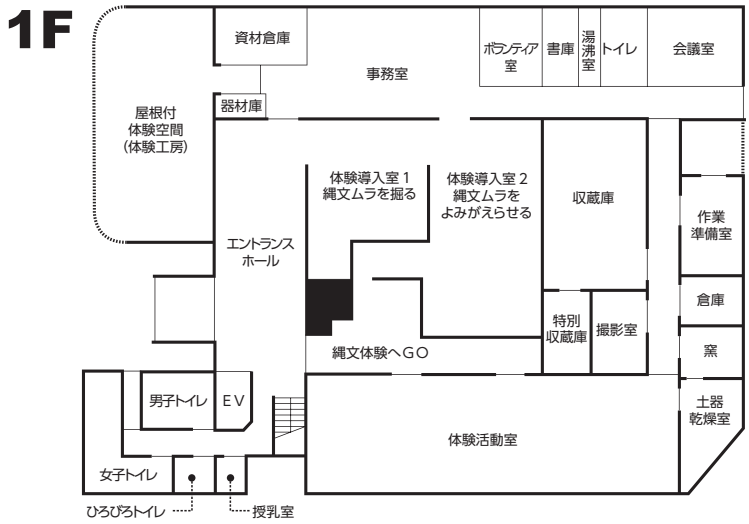
エントランスホール

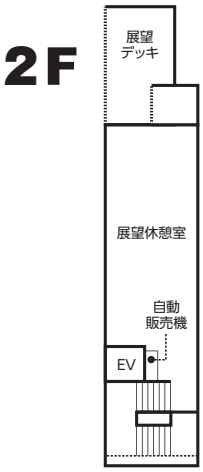
体験活動室

展望休憩室

縄文ムラ・広場ゾーン　約15,400㎡

敷地全体図





ガイダンス施設平面図

各室面積表

(㎡)

体験導入室	207.93
体験活動室	160.58
屋根付体験空間	98.70
展望休憩室	69.90
収蔵庫	81.19
ボランティア室	17.10
事務室	68.08
会議室	25.42

4. 整備の目的と基本方針

地底の森ミュージアム

設置の趣旨・目的	仙台市では富沢遺跡第30次調査の貴重な成果から調査対象地区を保存するとともに，積極的に公開・活用していくこととし，樹木やたき火跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存処理をして展示・公開する「富沢遺跡保存館」と，発見された樹木などをもとに旧石器時代の植生を復元する「氷河期の森」を一体的に整備した。 仙台市富沢遺跡保存館は，この保存された富沢遺跡の活用をとおして，主に旧石器時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしている。
基本的性格・基本方針	①富沢遺跡保存館は，世界的にも貴重な富沢遺跡の歴史的価値を人類共通の遺産として保存しながら，積極的に公開・活用し，市民が誇れる施設とする。 ②富沢遺跡保存館は，旧石器時代を中心としたテーマミュージアムである。ここでは発掘された2万年前の樹木やたき火跡を現地で保存処理して公開するとともに，発見された遺物などをとおして当時の環境と人類の活動を生き生きとよみがえらせ，それを世界的な視野の中に位置付ける活動を行っていく。 ③富沢遺跡保存館の野外展示である「氷河期の森」では，富沢遺跡の調査から判明した氷河期の植生を再現し，自然の悠久なる偉大さが臨場感豊かに伝わるよう展示するとともに，市街地の中のオアシスとして市民に憩いの場を提供する。 ④富沢遺跡保存館は，来訪者に富沢遺跡がもつ歴史的な魅力をダイナミックに伝えるとともに，学校教育活動との緊密な連携を図りながら，生涯学習の視点から市民の発展的な創造力の涵養を積極的に支援する施設とする。
収蔵資料	当館の建設された経緯から，富沢遺跡から出土した仙台市教育委員会が所蔵する資料のうち，常設展示に関する資料及び旧石器時代に関する資料を借用し保管している。特に，富沢遺跡出土の球果や葉などの植物化石，シカのフンは大型冷蔵庫に収納するなど，資料の日常的な管理作業を必要とする。 **【常設展示関係資料】** ①人工遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層出土石器　111点（K63 ～ K167c） ○富沢遺跡第30次調査27層出土チップ　137点 ○富沢遺跡第30次調査25層など出土チップ　81点 ○富沢遺跡第8次調査出土縄文土器　1点（A-1） ○富沢遺跡第30次調査出土石匙　1点（K-30） ○富沢遺跡第30次調査出土弥生土器　1点（B-5） ○富沢遺跡第30次調査出土石庖丁　1点（K-25） ○富沢遺跡第30次調査出土須恵器坏　1点（E-6） ②自然遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層検出炭化物　1箱（テンバコ32） ③模型・剥製 ○人類頭骨模型　9点 ○シカ剥製（成獣，幼獣）　3体 ④富沢遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

	【保管資料】 ①富沢遺跡出土遺物 ○富沢遺跡第30次調査25 ～ 27層出土植物化石　2,091点 ○富沢遺跡第30次調査25層出土フン　21ブロック ○富沢遺跡第58次調査21 ～ 41層出土植物化石　398点 ○富沢遺跡第63次調査21 ～ 25b 層出土植物化石　52点 ○富沢遺跡第66次調査33 ～ 35層出土植物化石　25点 ○富沢遺跡第68次調査24・26層出土植物化石　20点 ○富沢遺跡第88次調査9 ～ 13層出土植物化石　2,663点 ○富沢遺跡第88次調査9 ～ 11層出土フン　42ブロック ○富沢遺跡第90次調査25 ～ 27層出土植物化石　1,525点 ○富沢遺跡第90次調査25層出土フン　20ブロック ②近隣遺跡出土遺物（仙台市指定有形文化財） ○春日社古墳出土革盾　1点 ○春日社古墳出土鉄矛　1点 ○春日社古墳出土鉄鏃　1束（15本） ③寄贈図書 ○博物館及び教育委員会 など ④購入図書 ○定期購読図書：月刊文化財発掘出土情報・月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・考古学雑誌・旧石器考古学 など ○一般図書：旧石器時代・考古学・人類学・植物学などの関連図書 など ⑤イラスト及び版画　制作：細野修一 ○特別企画展関係　54点 ○その他常設展示関係など　4点 ⑥その他 ○二階堂亮氏寄贈：石斧1点や文献・写真など計24点（平成9年4月17日受） ○高橋政治氏寄贈：日本国内及びニュージーランドの土器約50点，石器約330点など計約400点（平成14年8月19日受） ○二階堂亮氏寄贈秋保電鉄旗立駅関連図面写し計4点（平成21年5月28日受）

仙台市縄文の森広場

設置の趣旨・目的	遺跡の整備は，地域社会あるいは都市空間のなかで，具体的な活用の姿を示し，社会的・文化的役割を担うことを目的とし，縄文ムラの復元によって，都市の歴史的背景の一端を共有できる空間と，体験活動を通して人と自然との関わりを知ることにより，創造的な市民の意識がはぐくまれる空間を創り出す。
基本的性格・基本方針	**【整備の基本方針】** ①遺跡の保存整備：遺跡の保存状態を良好に維持し，後世に伝える。 ②縄文ムラの復元整備：縄文時代中期末葉を復元対象の時期として東地区に竪穴住居を数棟作り，継続的な発掘調査の成果を活かしながら，西地区を含めてその変遷を追うように建て替えを行ってムラの変化を示す。また，環境復元は現状の植生を考慮して行う。 ③市民の憩いの場としての整備：縄文人の生活した場所であることが体感できる市民の憩いの場としての整備を行う。 ④体験活動の場としての整備：ガイダンス施設や体験活動を行う場を整備する。 ⑤発掘調査の場としての整備：山田上ノ台遺跡の未調査地区を主な対象とした計画的な発掘調査を継続して行い，その成果を基に整備を行う。 **【活動の基本方針】** ①体験活動：山田上ノ台遺跡の調査成果及び保存整備の意義を導入として，縄文人の生活と技術をテーマとする体験活動を展開する。体験活動は継続的な発掘調査と生活と技術の復元調査の成果をもとに充実していく。 ②発掘調査：体験活動を兼ねた発掘調査を行い，山田上ノ台遺跡の全体像を明らかにする。 ③情報の発信・受信・交流：体験活動の情報や縄文時代を中心とする発掘情報を広く市民に提供する。 ④講座・教室の開催：体験活動に関する内容を主とし，縄文時代の生活などを紹介する講座や新しい体験メニューを実践する教室を開催する。 ⑤学校・生涯学習施設との連携：学校との連携によって，小中学校などを対象とした体験学習を授業で積極的に行う。また，地底の森ミュージアムや市民センターなどの生涯学習施設と連携した活動を行う。 ⑥教職員対象講座の開催：小中学校の教職員を対象に，社会科，歴史，総合学習などの授業に関する支援と学習の場を提供する。 ⑦ボランティアの育成と支援：ボランティアの育成を行い，多様なボランティア活動を支援する。 ⑧地域住民との連携：山田地区の市民を対象に，山田上ノ台遺跡の重要性を理解し，活用してもらうためのさまざまな活動を行う。 ⑨資料収集・保管：調査・研究に関わる文献や資料の収集・整理と，遺跡出土遺物の保管を行う。
収蔵資料	当館は建設の経緯から，仙台市教育委員会で所蔵する山田上ノ台遺跡に関する常設展示資料，及びその他の出土資料を借用し，保管している。 **【常設展示関係資料】** ①人工遺物 ○山田上ノ台遺跡出土縄文時代の資料　土器40点・石器141点・土製品7点 ○山田上ノ台遺跡出土旧石器時代の資料　石器11点 ②山田上ノ台遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

	【保管資料】 ①山田上ノ台遺跡出土遺物 ○山田上ノ台遺跡第1次調査　旧石器時代の資料（テンバコ32）3箱・登録縄文土器344点・円盤型土製品1059点・土器破片99点・石鏃270点・石匙62点・石錐79点・篦状石器38点・その他石器9467点・石核（テンバコ32）2箱・凹石393点・礫石器（テンバコ32）6箱・磨製石器688点・焼礫（テンバコ32）6箱・石皿14点・扁平石（テンバコ32）5箱・打製石斧5点・磨製石斧40点・石製円盤11点・砥石12点・石刀3点・石剣1点・石棒1点・玦状耳飾1点・登録土師器63点・土師器破片（テンバコ32）2箱・登録須恵器13点・須恵器破片（テンバコ32）2箱・陶磁器72点・釘68点・鏡1点・金属製品16点・木製品2点・墓石1基・石碑1基・人骨（テンバコ32）5箱・未整理（テンバコ32）1箱・土壌サンプル（テンバコ32）1箱 ○山田上ノ台遺跡第2次調査　旧石器時代の資料（テンバコ16）1箱 ○山田上ノ台遺跡第3次調査　石器（テンバコ32）2箱・接合資料26点・礫石器（テンバコ32）6箱・縄文土器（テンバコ32）1箱・炭化物（テンバコ32）1箱・土壌サンプル（テンバコ32）12箱 ○山田上ノ台遺跡第4次調査　未整理遺物（テンバコ32）5箱 ②縄文関連遺跡出土遺物 ○下ノ内浦遺跡　遺物40点・パネル2枚 ○伊古田遺跡　遺物47点・パネル1枚 ○上野遺跡　遺物13点 ○王ノ壇遺跡　遺物4点 ○下ノ内遺跡　遺物2点・パネル2枚 ○山口遺跡　遺物2点 ○六反田遺跡　遺物2点・パネル1枚 ○大野田遺跡　遺物20点　パネル2枚 ○北前遺跡・高柳遺跡・三神峯遺跡・鍛冶屋敷遺跡　各1点 ③寄贈図書 ○博物館及び教育委員会 など ④購入図書 ○定期購読図書：月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・博物館研究 など ○一般図書：縄文時代・考古学・博物館学 など

[地底の森ミュージアム]

1. 平成31年度・令和元年度事業報告

(1) 展示事業

① 常設展示

ⅰ) 展示の構成

来館者は，最初に地下の「常設展示1」で，発掘された2万年前の森の跡と人類の生活跡を見学する。次に発掘調査の成果を「常設展示2」を通して理解し，さらに企画展を開催している場合はこれを見学する。そして，最後に保存館より外に出て，復元された旧石器時代の森の中を散策しながら楽しめるように構成されている。 なお，館内の展示サインは日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語表記としている。

●常設展示1（地下）	：2万年前の森の跡とたき火跡を，発掘したままの状態で展示
	↓
展示ロビー（中地下）	：地下の森の跡を眺望できる
	↓
●常設展示2（1階）	：発掘調査でわかったことや出土遺物を展示
	↓
	＜企画展示＞
	↓
展望ラウンジ（1階）	：復元された氷河期の森を眺めることができる
	↓
●氷河期の森（野外）	：2万年前の富沢の地形や植生を復元展示

ⅱ) 展示の方法とねらい

現地保存型の遺跡博物館施設としての特徴を生かし，常設展示1で最初に2万年前の遺跡そのものを見ることから始まる展示構成は，来館者におおむね好評である。団体の見学も多く，展示説明を希望される場合は，職員及びボランティアが館内の説明を行いながら一緒にまわっている。野外展示は，環境学習の場として活用が広がるとともに，鳥類や両生類，昆虫類が来訪および生息する地域の緑地として機能している。

○常設展示1（地下展示室）

・展示：900㎡の楕円形の大空間に広がる「本物」の遺跡と，壁面に広く映し出される湿地林の風景や昇降式スクリーンでの復元映画の放映などによる演出により，富沢の環境と旧石器人の活動のようすを伝えている。

・保存公開：地下の展示室では，温湿度の設定値の調整，地下水位については排水ポンプの調整によって，保存・公開に適した状態を維持することに努めた。室内は湿度70％以上を保つようにしているが，外気の湿度の影響を受けることもあったため，平成10年に地下展示室への出入口4ヶ所に扉（自動扉2ヶ所を含む）を設置する工事を行い，湿度の安定を図った。保存処理及び管理については，（株）C&P研究所に委託し，仙台市教育委員会と当館の三者で打合せを行いながら進めた。その際，東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センターの猪股宏氏，東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科の米村祥央氏の指導・助言を得た。

○常設展示2（1階展示室）

・展示：展示の構成は，順にa. 氷河期へのいざない，b. 富沢での人類の活動をテーマとする展示，c. 富沢の自然環境をテーマとする展示，d. 復元画と立体映像による展示となっている。b・cでの「富沢博士」が謎解きをしながら調査でわかったことを説明していく展示方法や，全体をとおして映像や模型，グラフィックパネルなど，視覚的な面を重視した展示は，大人から子どもまで楽しめる内容となっていて，小・中学生の学習活動に利用されるなど，好感をもたれている。特に，3Dの立体映像とジオラマ模型を組み合わせた展示は子どもたちに人気が高い。

○野外展示

・植生：仙台周辺には自生していない植物が多いことから，仙台市教育委員会と当館が打合せを行いながら，植生の維持と管理に努めている。その際には東北大学名誉教授の鈴木三男氏，東北大学植物園の牧雅之氏らから助言・指導をいただきながら進めている。また，植物の生態調査については，東北大学の委託研究として実施している。

② 企画展示

◎特別企画展

第89回特別企画展「センダイ 遺跡の記憶」

○会期：7月19日（金）～ 9月23日（月・祝）

○開催日数：56日間

○入館者数：7,405人

○会場：企画展示室・研修室

○展示内容：仙台市内の遺跡でみつかった旧石器時代から古代にかけての市指定文化財資料を中心に展示し，東北地方や中部地方の遺跡出土品との類似性や産地などから当時の交流と仙台の地が果たした機能や役割を紹介した。

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などによ

り宣伝を行った。また，ポスター（600枚）・チラシ（8,000枚）を作成し，関係機関・各所に配布した他，交通機関（地下鉄南北線）のイベントボード掲示も行った。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○刊行物：A4版48ページの特別企画展図録を作成し，刊行した。

○協力機関：八戸市博物館，八戸市南郷歴史民俗資料館，岩手県，（公財）岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター，奥州市教育委員会，（一財）奥州市文化振興財団 奥州市埋蔵文化財調査センター，洋野町教育委員会，秋田県埋蔵文化財センター，秋田県立博物館，大崎八幡宮，東北大学大学院文学研究科，東北大学総合学術博物館，東北大学附属図書館，宮城県教育委員会，（公財）福島県文化振興財団　福島県文化財センター白河館，糸魚川市教育委員会，長者ヶ原考古館，仙台市博物館，仙台市史編さん委員会，仙台市教育委員会

ポスター

○関連行事

・記念講演会「文化財が語る地域の魅力」

日時：8月24日（土）　13:30 ～ 15:30

記念講演会

講師：近江俊秀氏（文化庁）

会場：仙台市太白区中央市民センター大会議室

参加者：67人

・ギャラリートーク

日時：①7月28日（日）　13:30 ～ 14:30

②8月18日（日）　13:30 ～ 14:30

講師：当館職員　　参加者：①18人，②15人

展示風景

・体験コーナー「つくってみよう　きみだけの宝もの」

特別企画展期間中の3日間実施した。

日時：①8月4日（日）　13:00 ～ 15:00

②8月17日（土）　13:00 ～ 15:00

③9月 15日（日）　13:00 ～ 15:00

参加者：①38人，②63人，③40人

会場：展望ラウンジ

体験コーナー

◎企画展

ⅰ）第88回企画展「仙台の遺跡めぐり　古代びとの道具箱」

○会期：4月19日（金）～ 6月16日（日）

○開催日数：50日間

○入館者数：9,000人

○会場：企画展示室

○展示内容：郡山官衙遺跡・郡山廃寺・陸奥国分寺跡で仕事をしていた役人がどのような道具を使い生活をしていた

のか，遺跡からみつかった土器・石製品・木製品などを中心に，一般庶民の道具と比較して展示した。また，赤井遺跡や矢本横穴墓群（東松島市），原遺跡（岩沼市）など県内の最新の発掘調査成果もあわせて紹介した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター（カラー）B2　650枚，チラシ（表面カラー・裏面１色）A4　8,000枚

○関連行事

・関連講座

日時：5月25日（土）　13:30 ～ 15:00

講師：及川謙作氏（仙台市教育委員会文化財課）

会場：研修室　　参加者：86人

・ギャラリートーク

日時：4月21日（日）　14:00 ～ 15:00

講師：当館職員　　参加者：15人

ポスター

ギャラリートーク

・関連イベント「木簡ストラップをつくろう」

日時：6月9日（日）　13:00 ～ 15:00

会場：研修室　　参加者：34人

関連講座

ⅱ）第90回企画展「土器の“ヒミツ”」

○会期：10月25日（金）～ 12月15日（日）

○開催日数：44日間

○入館者数：5,051人

○会場：企画展示室

○展示内容：仙台市内の遺跡から見つかっている縄文土器や弥生土器を紹介し，土器に残る痕跡からどのように使われたのか，どのようなことがわかるのかを，土器の「ヒミツ」として紹介した。虫メガネで観察するコーナーや展示パネルをめくるなど来館者に自発的に展示をみてもらうような取り組みを行った。関連イベントとして，「土器圧痕レプリカ法」を体験するイベントを実施した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター（カラー）B2　600枚，チラシ（表面カラー・裏面１色）A4　7,000枚

ポスター

関連講座

○関連行事

・関連講座：「土器にのこされた痕跡からみえるもの」

日時：11月16日（土）　13:30 ～ 15:00

講師：五十嵐愛氏（仙台市教育委員会文化財課）

会場：研修室　　参加者：28人

・ギャラリートーク

日時：11月4日（月・休）　13:30 ～ 14:30

講師：当館職員　　参加者：10人

・関連イベント「地底の森こどもラボ」

日時：11月24日（日）　13:00 ～ 15:00

講師：当館職員

会場：展望ラウンジ　　参加者：21人

関連イベント

ⅲ）第91回企画展「もりの風景2019」

○会期：1月15日（水）～ 3月15日（日）

○開催日数：50日間

○入館者数：3,747人

○会場：企画展示室

○展示内容：平成31年度・令和元年度に実施した体験教室「親子でつくろう古代米」，施設広報開発「探検☆氷河期の森」,「地底の森フェスタ2019」などの事業を紹介する他，ボランティアの活動や活動に伴う制作物，市民が撮影した野外展示「氷河期の森」の植物や生き物の写真などを紹介した。

○印刷物：ポスター（カラー）A3　100枚

ポスター

(2) 普及啓発事業

①　学校教育との連携

ⅰ）利用状況

平成31年度・令和元年度の総入館者数における小・中学生の割合は25%であり，その多くは学校利用が占めている。仙台市内の学校の利用状況を見てみると，小学校は4～6月にかけての利用学習が多く，中学校は4～10月の校外学習（自主研修含む）が多い。

ⅱ）利用学習

仙台市内の小・中学校と連携して授業を実践する事業である。各校における博物館活用を，当館と縄文の森広場の職員とボランティアが授業を行う形で実施している。平成31年度・令和元年度の当館利用は小学校6年生で，総数21校1,543人であった。展示見学と「石器づくり」，「石器を使う体験」，「氷河期の森探検」の3つの体験学習から選択する学習プログラムを実施した。

ⅲ）職場体験活動

市内中学校からの職場体験活動の申し込みに基づき，平成31年度・令和元年度は15校39人の中学生を受け入れた。1回につき3～4日間2～10人程度を受け入れて実施した。体験内容は，館内掲示物の作成，図書・アンケートの整理，野外展示の巡回などである。

職場体験活動

ⅳ）博物館学芸員課程実務実習

県内の大学に通う学生，もしくは県外の大学に在籍する宮城県内出身の学生を中心に希望者（最大定員12人）を受け入れている。11月26日（火）～ 11月30日（土）の期間に，尚絅学院大学２人，東北学院大学３人，宮城学院女子大学２人，東北生活文化大学１人，関東学院大学１人，石巻専修大学２人，計11人を対象に実施した。

博物館学芸員課程実務実習

ⅴ）教職員機関研修

学校教育との連携を推進するため仙台市教育センターの機関研修として，仙台市博物館・縄文の森広場と合同で行い，２名を受入れた。

②　各種普及活動

ⅰ）体験学習

旧石器時代のテーマミュージアムとして，石器づくりを主とした旧石器時代の生活技術について，体験を通して学ぶ事業などを積極的に実施した。また，水田遺構が多数発見されている富沢遺跡の特徴を紹介する体験教室「親子でつくろう古代米」など，指定管理業務以外にも自主財源事業を実施した。

○たのしい地底の森教室

来館者が気軽に参加しやすく，当館に親しみをもってもらえるような体験や講座として，当日参加可能な内容を中心に実施した。体験イベントや企画展の展示解説や関連イベント，野外展示「氷河期の森」に親しみをもってもらうイベント，ボランティアの自主企画イベントなどを実施した。事業例としては，手話通訳付きで展示を解説した「やさしい展示解説会」や，仙台市立仙台工業高等学校模型部との連携企画を春と秋に各１回，仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会による地底の森ミュージアムを題材とした紙芝居の上演を２回実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として，３月８日と22日のイベントは中止した。

日時：毎月２回程度の土・日・祝
　　13:30 ～ 14:30（内容により15:00）
場所：地下展示室・研修室・企画展示室・展望ラウンジ・
　　野外展示「氷河期の森」他
対象：当日の入館者　　参加者：計874人

紙芝居

○地底の森フェスタ2019

職員とボランティアスタッフが共同で運営するイベントである。「石器づくり」・「やり投げ」・「火おこし」・「石器を使ってみよう」・「編布服試着・小物づくり」・「地底の森ガ

地底の森フェスタ2019

イドツアー」と，縄文の森広場の出張コーナー「火おこし」の7つの体験コーナー，石蒸し料理・地底の森スープ・古代米おにぎりの「地底の森料理」試食コーナーを設けて実施した。また，スタンプラリーも実施した。

日時：10月14日（月・祝）　10:00 ～ 15:00
会場：芝生広場・地下展示室他
対象：一般市民　　参加者：計753人

○体験コーナー「石器をつかってみよう」

日時：日曜・祝日の13:00 ～ 15:00
対象：当日の入館者
内容：実際に紙を切って，石器の切れ味を体験してもらった。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として，令和2年3月1日以降は休止。

○体験教室「親子でつくろう古代米」

事業団の自主事業。古代米（紫黒米）の栽培・収穫をとおして，農業の歴史を実体験として感じてもらうことを目的とした。さらに館隣接地での栽培により，地域住民などとの交流を図ることで，当館が市民協働・連携など，地域活性化の拠点となることを目標とした。

田植え

収穫祭

5月11日（土）
　オリエンテーション・田植え　　参加者：45人
6月8日（土）　　弥生土器づくり　　参加者：45人
7月27日（土）
　石庖丁づくり・かかしづくり　　参加者：39人
9月21日（土）　　稲刈り　　参加者：44人
11月3日（日・祝）　　収穫祭　　参加者：53人

○古代米の稲わらで正月飾りつくり

栽培した稲わらを活用し，野外展示「氷河期の森」の植物を利用して，正月飾りづくりを体験する事業を行い，古代米づくりの活動の紹介や古代米の販売を促進した。

日時：12月21日（土）・22日（日）　11:00 ～ 14:00
会場：展望ラウンジ
対象：当日の入館者　　参加者：計42人

古代米の稲わらで正月飾りつくり

○冬キラ☆森の響き

事業団の自主事業。地域の方々が気楽に参加しやすい形で，野外展示「氷河期の森」の魅力に触れ，楽しみ，その価値を理解し，保全への共感を目的として実施した。

令和元年度は「森の響き」をテーマとし，森の響き合唱団（仙台市立富沢中学校出身者と同校合唱団有志）と宮城県仙台三桜高等学校音楽部が，閉館後の地下展示室で演奏を行った。また，地域との連携を深めていく場として，長町商店街のPUBLIC. COFFEE & BARに委託し，カフェコーナーを用意した。

日時：12月7日（土）・8日（日）
　　15:00 ～ 19:00（ライトアップは17:30 ～）
・たからさがしの森（ワークショップ）
　会場：研修室・氷河期の森
　参加者：80人（7日）・70人（8日）
・冬キラ☆カフェ
　会場：展望ラウンジ
　参加者：91人（7日）・140人（8日）

・冬キラ☆コンサート「森の響き」
　会場：地下展示室
　参加者：71名（7日）・120名（8日）

森の響き合唱団

三桜高校音楽部

○ミュージアム・シアター「狩人登場」
　事業団の自主事業。演劇の手法を通じて当館の展示をより理解してもらう「ミュージアム・シアター」として，劇団「短距離男道ミサイル」の劇団員が，旧石器時代の狩人に扮して館内外に登場した。
　開催期間：7・8月（夏季），11 ～ 3月（冬季）
　登場回数：24回

狩人登場

狩人登場

○施設広報開発「探検☆氷河期の森～冬の森で動画を撮ってみよう」
　事業団の自主事業。参加者が見つけた当館の魅力を動画撮影してもらい，その動画を館プロモーション映像として，当館が管理する YouTube・ホームページで公開している。参加者の9作品のほか，職員が撮影した動画3本もあわせて公開した。
　日時：1月19日（日）
　　①10:00 ～ 10:45　②10:45 ～ 11:30
　　③11:30 ～ 12:15
　　2月2日（日）
　　①10:00 ～ 10:45　②10:45 ～ 11:30
　　③11:30 ～ 12:15
　会場：野外展示「氷河期の森」・展望ラウンジ
　参加者：11人

○ SMMA クロスイベント「きみも富沢博士！～みる・しる・さわる　“かせき”のひみつ～」
　SMMA（仙台・宮城ミュージアムアライアンス）のクロスイベントとして，当館・東北大学総合学術博物館・みちのく博物楽団が協力して実施した。宮城県内から見つかっている資料（標本）の紹介と実際に触る体験を通して，化石への興味関心を深めるイベントとして，小学3年生以上と

きみも富沢博士！

その保護者を対象に，２日間実施した。

日時：２月15日（土）・16日（日）　両日13:00 ～ 15:00

会場：研修室・展示室

参加者：（15日）４組９名・（16日）６組13名

ⅱ）各種講座

〇考古学講座

生涯学習事業の一環として，一般を対象に，最新の研究成果を取り上げる講座を２回実施した。

第１回　11月23日（土）　13:30 ～ 15:00

演題：「つくって調べる　縄文布の世界」

講師：尾関清子氏（東海学園女子短期大学　名誉教授）

会場：研修室　　参加者：32人

第１回考古学講座

第２回　１月25日（土）　13:30 ～ 15:30

演題：「空から調べる　地形と遺跡の関係」

講師：原口強氏（大阪市立大学　准教授）

会場：研修室　　参加者：67人

第２回考古学講座

〇富沢ゼミ

富沢遺跡と近隣に所在する遺跡を中心に，地域の歴史や文化財を紹介する講座を実施した。

第１回　12月13日（金）　15:00 ～ 16:30

演題：「富沢さんぽ　泉崎あたり」

講師：斎野裕彦氏（仙台市教育委員会文化財課）

会場：研修室　　参加者：46人

第２回　２月７日（金）　15:00 ～ 16:30

演題：「富沢さんぽ　中近世の富沢あたり」

講師：渡部弘美氏（仙台市教育委員会文化財課）

会場：研修室　　参加者：57人

富沢ゼミ第２回

ⅲ）市民文化財研究員

応募者５人を対象に，遺跡や考古学に関する学習支援を実施した。学芸員による講義や各種体験，遺跡見学会を行ったほか，自身が設定したテーマをもとにレポートを作成し，その成果は当館ホームページにて公開している。

館外研修のようす

ⅳ）ボランティア活動

ボランティア登録者は，昨年度からの継続者 64人に，新規４人を加えて68人であった。活動内容は，来館者への展示解説を中心に，イベントの補助，講座の会場準備などである。１年間の解説活動の延べ実績は1,026人，2,774時間，イベント活動の延べ実績は474人，1,462時間であった。

また，スキルアップを目的として，実技研修と見学会を実施した。

ボランティア活動のようす

○実技研修「石蒸し料理・土器焼き研修」
　日時：6月2日（日）　10:00 ～ 14:00
　講師：当館職員　　会場：芝生広場　　参加者：28人

○見学会「福島県南相馬市（南相馬市博物館，桜井古墳公園），宮城県山元町（山元町歴史民俗資料館）」（縄文の森広場と合同で実施）
　日時：11月17日（日）　8:00 ～ 17:00
　参加者：両館ボランティア28人

見学会（南相馬市博物館）

ⅴ）運営懇談会

当館に隣接する町内会・小中学校・市民センターなどの方々に参加を依頼し，館事業を紹介し，運営のあり方について意見交換を行った。第1回は近隣町内会の方々に出席いただき，当館の活動を紹介して理解と協力を得るための会として実施した。意見やニーズを聴取し，館運営及び事業に活かすことを目的に，地域との連携を模索する場とした。第2回は，佐川正敏東北学院大学教授を招き，常設展示のリニューアルや今後の事業展開の方向性などについて助言をいただいた。これらの成果は，今後の当館運営及び事業に活かしていく。

第1回運営懇談会
　日時：8月22日（木）　15:30 ～ 16:45
　会場：事務室ほか　　出席者：8人
第2回運営懇談会
　日時：3月26日（木）　10:00 ～ 11:40
　会場：研修室　　出席者：13人

ⅵ）長町まちかど教室

近隣の長町商店街が主催している事業に協力して行った。商店街の店主やスタッフが講師となり，専門店のプロならではの「ワザ」「コツ」「まめ知識」を無料で紹介する企画である。当館は，「企画展　仙台の遺跡めぐり　古代びとの道具箱～展示品のウラ話～」と題して行った。
　日時：5月24日（金）　17:00 ～ 18:00
　会場：企画展示室　　参加者：4名

長町まちかど教室

ⅶ）地域学習「地底の森にいこう」

ながまち学びネット推進委員会が主催する地域社会教育事業に協力し，長町小学校・長町南小学校・鹿野小学校の児童らが参加した事業。当館ならではの活動として，野外展示を利用した学習や土器での炊飯体験を行ったほか，地域住民が講師となり自然素材を利用した民族楽器づくりと演奏会などを行った。

地域学習「地底の森にいこう」

日時：9月28日（土）　14:00 ～ 18:00
会場：芝生広場・地下展示室　　参加者：29名

vii）出前対応
○ララガーデン夏休みイベント
ララガーデン長町で毎年行われている夏休みイベントに，仙台市立仙台工業高等学校模型部との連携企画として「氷河期の森の松ぼっくりツリーを作ろう！」を出店した。
日時：8月6日（火）　13:00 ～ 15:00
会場：ララガーデン長町3階キッズガーデン
参加者：24名

○富沢市民センターまつり
富沢市民センターが主催する市民センターまつりに参加し，体験イベント「とみざわ　いせきスタンプをつくろう」を実施した。
日時：10月6日（日）　13:30 ～ 15:00
会場：富沢市民センター　　参加者：44名

富沢市民センターまつり

viii）国際交流
東アジア考古学研究所より招聘を受け，大韓民国の京畿道漣川郡全谷里で5月2日～6日に行われた「第27回漣川旧石器祭」（教育博覧会・国際ワークショップ）に縄文の森広場職員と共に参加した。参加は4回目となる。また，参加の様子は館の Facebook にて紹介した。

（3）調査・研究事業

①　遺跡に関する各種分析調査と遺跡保存

保存公開している遺跡の現状を把握し，問題への対処などを検討するために，11月と3月に保存処理検討会を開催した。検討会には，猪股宏氏（東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センター），米村祥央氏（東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科）を招き，遺跡の現状と今後の方向性に関して指導を受けた。併せて，保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的として，地下水位の測定ならびに分析も実施した。また，学校法人東北芸術工科大学と共同研究を行い，土壌表面の析出物及び藻類等についての各種分析調査・保存科学的検討を行った。その成果の一部は，東アジア文化遺産保存国際シンポジウム（8月29 ～ 31日開催：韓国大邱）において，「土質遺構における塩類析出と含水率に関する研究－仙台市富沢遺跡保存館を事例として－」と題してポスター発表を行った。

②　研究報告の刊行

富沢遺跡保存館の調査研究活動の成果を発表し，これからの博物館運営に役立てることを目的として，『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2019』を刊行した。当館職員が「富沢遺跡の自然科学分析・調査について（1）」「ミュージアム・シアター「狩人登場 !!」実施報告と今後の課題」と題し，当館が保存・公開している遺跡の自然科学分析と調査についてと自主事業「狩人登場」についての実施報告と課題について報告したほか，縄文の森広場職員1名の調査研究成果を掲載した。

2.　施設管理

（1）定例保守

建物・設備の保守点検を毎月1回，通年で実施した。

（2）建物・設備などの修繕

野外展示池ろ過装置や業務用駐車場の洗い場の修繕等を行った。また12月～3月には，昨年度に故障した空調チラーの改修工事を仙台市発注のもとで行った。あわせて中央監視盤の修繕等も行ったが，開館から23年を経過し空調関連機器に不具合が頻発しており，地下展示室の温湿度維持管理が不安定な状態となっている。

3.　利用状況

平成31年度・令和元年度の開館日数は295日，その間の入館者数は34,122人であった。前年度入館者数（38,729人）と比べ4,607人の減となっている。具体的には，7月，9月，10月，12月が前年度比で70％台となっている。また，新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け，3月の入館者数は前年度比54.7％であった。

近隣商店街主催の「長町まちかど教室」参加，商業施設

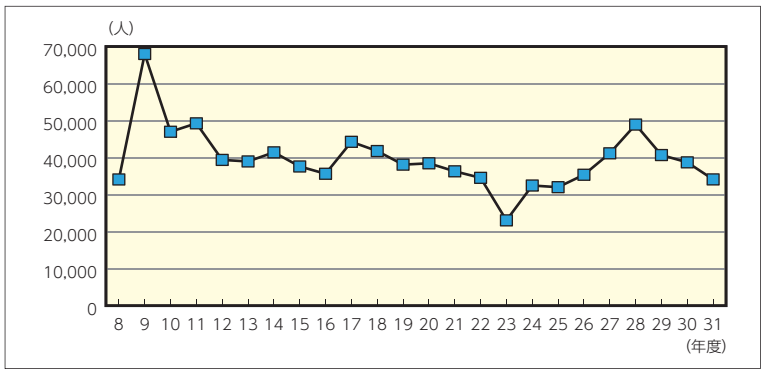
ララガーデン長町の夏休み企画における仙台工業高等学校模型部とのワークショップ協働，近隣町内会での講話などを積極的に行った。また，これまで利用の少なかった高校との連携として昨年度に続き，宮城県仙台三桜高等学校2年生が，近隣地域をテーマにした「探求学習」のために3回来館し，当館について調べ学習を行った。地域に根ざし，活性化に貢献する館外活動や情報発信に取り組んだ。

入館者の内訳を見ると，全体に占める有料入館者の割合は47％であった。その8割近くが一般，次いで小・中学生となっており，これは例年の傾向と変わりなかった。なお，平成8年11月2日の開館から令和2年3月31日までの総入場者数は951,456人である。

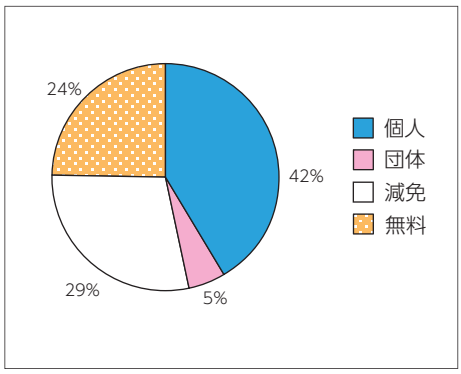
月別入館者数　（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

月	有料							無料					合計
	個人			団体			小計	減免			無料入館者	小計	
	一般	高校生	小･中学生	一般	高校生	小･中学生		一般	高校生	小･中学生			
4	961	21	298	84	0	290	1,654	290	0	631	425	1,346	3,000
5	1,408	31	577	119	0	273	2,408	837	59	976	533	2,405	4,813
6	1,090	5	465	49	0	282	1,891	430	0	1,161	508	2,099	3,990
7	1,105	25	100	67	1	21	1,319	302	29	312	618	1,261	2,580
8	1,974	55	320	77	2	21	2,449	434	0	658	644	1,736	4,185
9	1,071	15	169	53	0	25	1,333	240	25	314	493	1,072	2,405
10	776	19	66	50	0	177	1,088	554	0	225	1,326	2,105	3,193
11	755	2	32	35	0	10	834	589	29	337	1,322	2,277	3,111
12	610	5	22	17	0	0	654	150	0	139	846	1,135	1,789
1	669	11	28	22	0	4	734	242	0	296	586	1,124	1,858
2	774	14	22	61	0	1	872	237	0	123	696	1,056	1,928
3	630	26	44	22	3	0	725	119	0	70	356	545	1,270
計	11,823	229	2,143	656	6	1,104	15,961	4,424	142	5,242	8,353	18,161	34,122

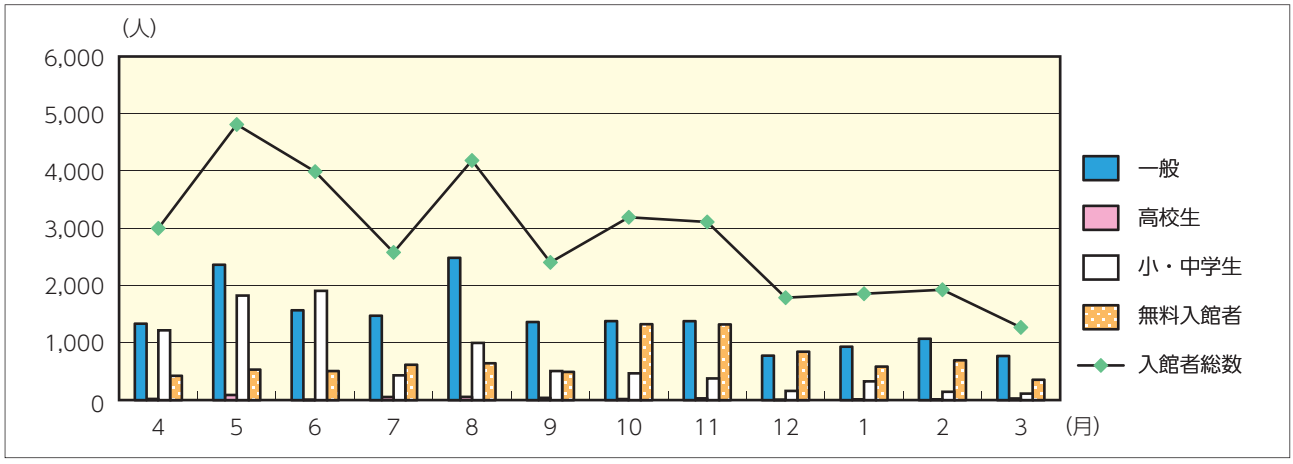
開館年度からの入館者数の推移



入館者内訳



月別入館者数



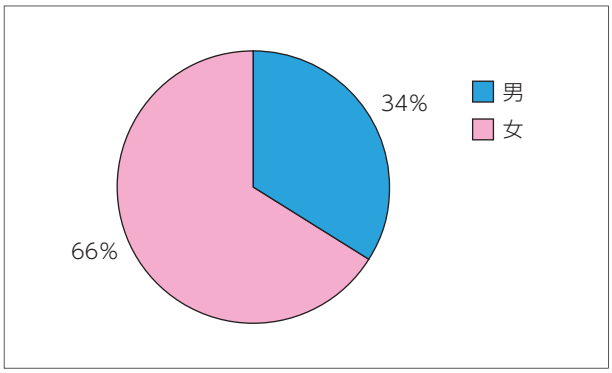
4. 入館者アンケート

常時所定の場所に設置し，毎日回収している。入館者からいただいた貴重な意見・提案については，その要望や意見への回答と改善について検討を行い，『お客様の声へのお答え』として展望ラウンジに設置した掲示板にお知らせしている。同時に要望や改善について，可能なものは迅速に対応するよう努めている。

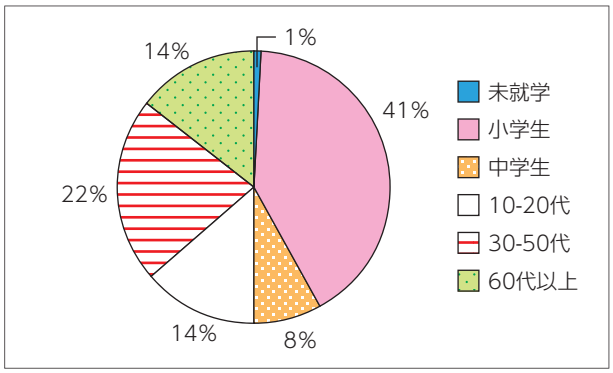
平成31年度・令和元年度においても，当館のより望ましい運営のあり方を探るためにアンケート調査を実施し，206人の方から回答をいただいた。今後も継続してアンケート調査を行い，要望や意見を当館の運営に反映させていきたいと考えている。

※どこでもパスポート：仙台都市圏広域行政推進協議会発行。入館の際に提示すると小・中学生は県内の社会教育施設（一部を除く）を無料で利用できる。

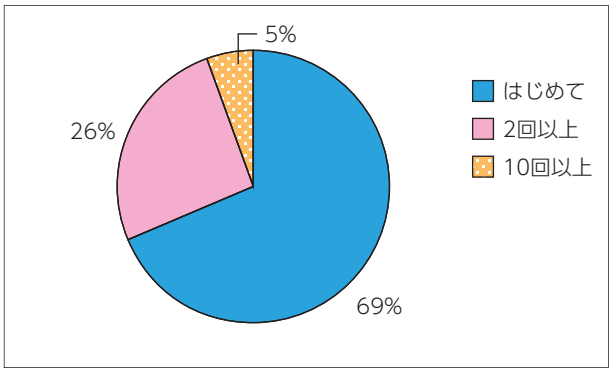
男女比



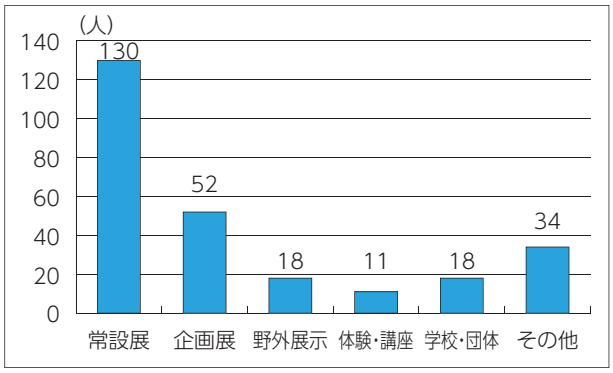
年代



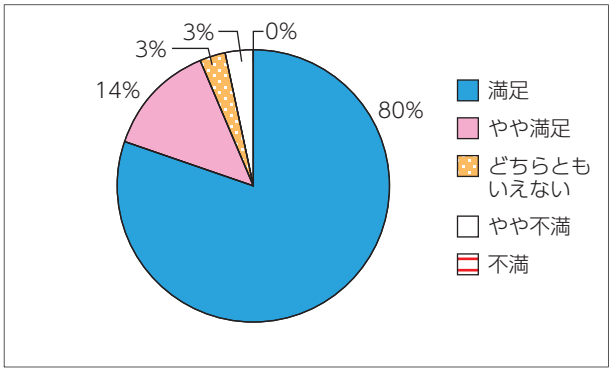
来館回数



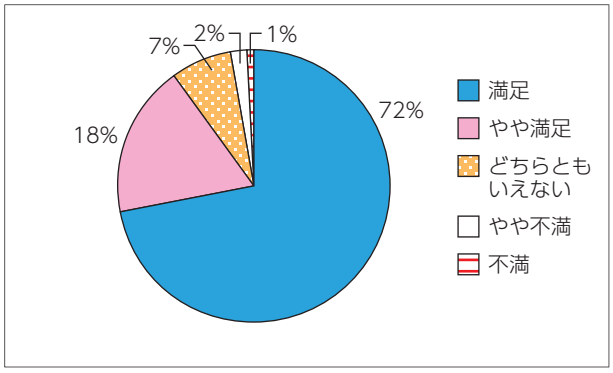
来館目的（複数回答）



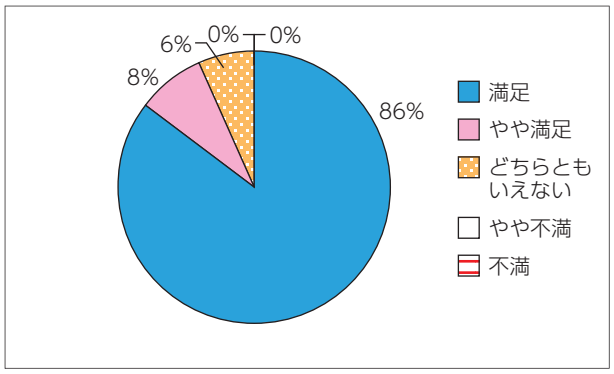
常設展見学の満足度



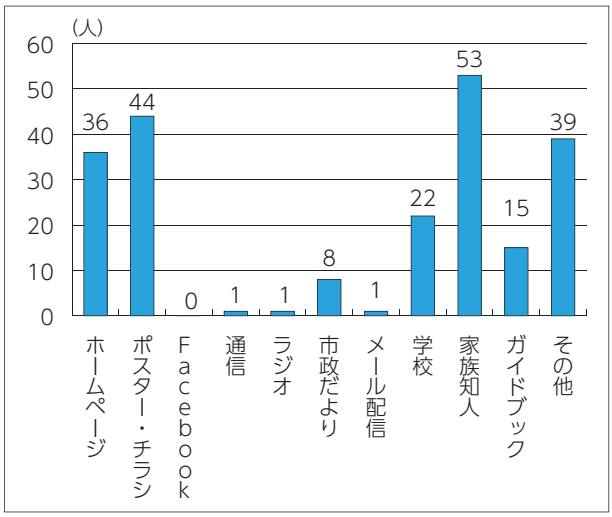
企画展見学の満足度



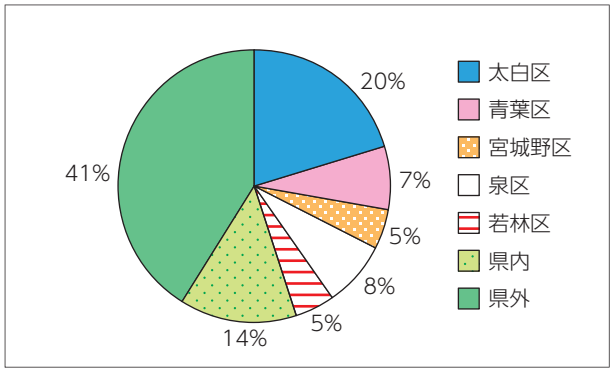
体験の満足度



何で知ったか（複数回答）



お住まい



5. 令和２年度事業計画

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として，令和２年４月11日（土）～５月17日（日）が臨時休館となったため，計画していた事業の内容及び日程等を変更した。また，５月19日（火）の再開館以降の事業についても内容・日程等を変更したものが多く，現時点での変更内容は【　】内に示した。

（1）展示事業

①　常設展示

ⅰ）常設展示１（地下展示室）

富沢遺跡の発掘調査面の展示

ⅱ）常設展示２（１階展示室）

出土資料をもとに調査成果を分かり易く解説した展示

ⅲ）野外展示「氷河期の森」

２万年前の植生を復元した

②　企画展示

◎特別企画展

「発掘！むかしのみやぎめし」

【規模を縮小し，企画展に変更】

会期：11月13日（金）～１月11日（祝・月）

内容：食べかす，骨や殻など食べられない部分，調理用具，人骨などから，過去の食べ物を解き明かす研究が行われてきた。昔の人々はどんな食材を，どのように食べてきたのか。仙台市内の遺跡から出土した資料をもとに「みやぎめし」を紹介する。

○関連行事

・記念講演会「旧石器人と食事と栄養」

日時：12月12日（土）　13:30 ～ 15:00

講師：山田しょう氏（ハーヴァード大学　Ph.D.）

会場：研修室

・ギャラリートーク

日時：11月21日（土）・１月９日（土）　13:30 ～ 14:30

講師：当館職員

・関連イベント「マイ箸づくり」

日時：11月29日（日）・12月６日（日）

11:00 ～ 12:00

講師：当館職員

会場：研修室

◎企画展

ⅰ）第92回企画展

「仙台の遺跡めぐり　きみのまわりの旧石器」

会期：4月24日（金）～ 7月19日（日）

【5月19日（火）より開催】

内容：市内の旧石器時代の遺跡を中心に，石器の見方や当時の環境なども紹介する。

○関連行事

・関連講座「遺跡からわかる旧石器時代の仙台」

日時：5月23日（土）　13:30 ～ 15:00

【7月11日（土）に変更】

講師：木村恒氏（仙台市教育委員会文化財課）

会場：研修室

・ギャラリートーク

日時：4月26日（日）　13:30 ～ 14:30

【6月28日（日）に変更】

講師：当館職員　　会場：企画展示室

・体験教室「旧石器を知る！！」

日時：5月17日（日）　10:00 ～ 12:30

【7月12日（日）に変更】

講師：当館職員　　会場：芝生広場ほか

ⅱ）第93回企画展「縄文あにまる ～つくる・つかう～」

会期：8月4日（火）～ 10月18日（日）

内容：仙台市内および宮城県内の遺跡から出土している縄文時代の動物形土製品と骨角器を主に展示する。「つくる」「つかう」2つの側面から，縄文時代の動物について探る。

○関連行事

・関連講座「アートで“縄文あにまる”」

日時：9月5日（土）　13:30 ～ 15:00

講師：根本裕子氏（陶芸家），井上幸治氏（美術批評家）

会場：研修室

・関連イベント「親子で知ろう！縄文あにまる」

日時：8月9日（日）・16日（日）・23日（日），9月22日（火・祝）　各日10:00 ～ 11:00，13:30 ～ 14:30

講師：当館職員　　会場：研修室ほか

ⅲ）第95回企画展「もりの風景2020」

会期：2月2日（火）～ 3月14日（日）

内容：地底の森ミュージアムの一年間の展示や体験教室などの活動のようすを紹介する。

（2）普及啓発事業

①学校教育との連携

ⅰ）利用学習（縄文の森広場と合同して実施）

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主対象とし，通年で当館の常設展示の見学・体験学習と縄文の森広場の各種縄文体験による学習を行う。【7月以降の受入れに変更】

ⅱ）職場体験活動

市内中学校からの要請に応じて，通年で職場体験活動を受け入れる。

【7月以降の受入れに変更】

ⅲ）博物館実務実習

学芸員資格取得を目指す大学生（定員12人）を受け入れ，実習を行う。

期日：9月9日（水）～ 9月13日（日）

ⅳ）教職員利用研修

市内小・中学校の教職員を対象として，当館の展示と学習活動を紹介し，学校教育との連携のあり方を検討する。

日時：8月7日（金）　14:00 ～ 16:00

【9月25日（金）に変更】

②考古学講座

先史時代に関する考古学・環境などのテーマを設定し，専門家による講座を2回実施する（縄文の森広場との連携事業）。【未定】

第1回考古学講座「旧石器時代の人類移動（仮）」

講師：未定

日時：11月21日（土）　13:30 ～ 15:00

会場：研修室

第2回考古学講座「日本の旧石器文化（仮）」

講師：未定

日時：1月30日（土）　13:30 ～ 15:00

会場：研修室

③富沢ゼミ

富沢遺跡から明らかになった富沢地区の多様な歴史の一端を紹介する講座。講師には，聴講者からの質問に随時答えていただく形で実施する。

第1回「遺跡さんぽ―長町界隈（仮）」

講師：未定

日時：6月26日（金）　15:00 ～ 16:30

【12月18日（金）に変更予定】
会場：研修室
第2回「富沢遺跡を復元する（仮）」
講師：未定
日時：令和3年2月19日（金）　15:00 ～ 16:30
会場：研修室

④たのしい地底の森教室

富沢遺跡に関連するテーマを担当職員が設定し，体験型活動を実施する。多世代の来館者が楽しめる内容となるよう工夫して行う。特に，春のゴールデンウィーク期間，秋休み期間には主に小中学生を対象とした，石器づくり・編布アクセサリーづくり・「氷河期の森」の植物を利用したオリジナルグッズづくりなどのメニューを日替わりで実施する（内容によっては事前申込制）。

期日：土・日・祝を中心に毎月1 ～ 2回程度
13:30 ～ 14:30【7月12日（日）より開始】

⑤地底の森フェスタ2020

一般市民を対象として館西側の芝生広場を会場に「やり投げ」・「石器づくり」・「編布服試着・小物づくり」などの体験活動や，石蒸し料理・複製土器で煮込んだ地底の森スープ・古代米おにぎりなどの試食を行う（縄文の森広場との連携事業）。

日時：10月12日（月）　10:00 ～ 15:00
【内容を見直し，10月10・11・18・25日に変更】

⑥体験コーナー「石器をつかってみよう」

学芸員やボランティアが製作した石器を使用して，型紙を切る体験を実施する。

期日：日曜日・祝日（館事業により休止する場合もある）
【4月以降，休止中】

⑦市民文化財研究員の育成

公募した市民（定員10人）が，1年間にわたり週1回当館にて考古学や遺跡に関する学習活動を行う。館職員は，講義や遺跡見学会などの支援を行う。研究員は，それぞれのテーマに基づき自主学習を行い，その成果を活動報告にまとめる。【6月3日（水）より開始】

⑧ボランティア育成

市民文化財研究員を修了した希望者及び一般市民から募集し，展示解説や館行事の準備や補助などを行っていただくボランティアスタッフを養成する。さらにすでにボランティア登録している現ボランティアのスキルアップ研修も実施する（縄文の森広場との連携事業）。【5月までは月例会中止。来館者との接触を伴う活動は休止中】

ⅰ）新規ボランティア養成講座
オリエンテーション：4月11日（土）
【6月20日（土）に変更】
第1回：4月18日（土）【6月20日（土）に変更】
第2回：4月25日（土）【7月26日（日）に変更】
第3回：5月16日（土）【8月2日（日）に変更】
第4回：5月23日（土）【中止】
第5回：6月20日（土）【中止】
第6回：7月5日（日）　【中止】

ⅱ）ボランティア育成講座
第1回「調査研究状況～フィールドワークから～（仮）」
講師：未定
日時：12月6日（日）　13:30 ～ 15:00
第2回「考古学の最新研究（仮）」
講師：未定
日時：2月7日（日）　13:30 ～ 15:00

ⅲ）ボランティア遺跡見学会（縄文の森広場との合同見学会）
日時：11月8日（日）　8:30 ～ 17:00【中止】

ⅳ）ボランティア実技研修「土器焼き」
日時：6月7日（日）　10:00 ～ 14:00【未定】

⑨地域や大学との連携

地域の行事には積極的に参加・協働し，周辺の学校や社会教育施設，並びに地域住民とともに地域文化の中核となる博物館をめざす。また市内大学と連携し，学生サポーターとの協働も進めていく。

ⅰ）太白区民まつりへの参画　10月【中止】
ⅱ）地域・近隣学校等との運営懇談会開催【未定】
ⅲ）体験学習事業での学生ボランティアとの協働

⑩インターネットおよびSNSによる情報発信

企画展の開催や体験活動などの情報を広く一般の方々に提供するため，ホームページを開設し，常時更新しながら情報発信する。またフェイスブックでの情報公開も行う。

⑪事業団の自主事業

ⅰ）歴史的生活体験教室「親子でつくろう古代米」
近隣小学校3年生以上とその保護者20組を募集し，古

代米の栽培・収穫を通して農業の歴史を実体験して感じてもらう事業として5回の講座を実施する。関連イベントとして，12月19日（土），入館者を対象に「古代米の稲わらで正月飾りつくり」を実施する。

第1回　5月9日（土）：オリエンテーション・田植え【中止】
第2回　6月13日（土）：土器づくり【石包丁づくりに変更】
第3回　7月18日（土）：石庖丁づくり【土器づくりに変更】
第4回　9月19日（土）：稲刈り
第5回　9月26日（土）：土器焼き
第6回　11月3日（火・祝）：収穫祭

ⅱ）歴史・芸術融合事業

「ミュージアム・シアター“狩人登場！”」

市内を中心に演劇などの表現で活動している劇団「短距離男道ミサイル」の劇団員が旧石器時代の狩人に扮し，館内外にて狩人出現とパフォーマンスを行う。

開催期間：7月～3月　25回程度

ⅲ）地域交流促進事業

地域のイベントとしての定着と，地域の方々が参加しやすい形で，野外展示「氷河期の森」の価値を高めることを目的として実施する。

日程：7月・1月【10月24日に変更】

ⅳ）映像・記録発信事業

野外展示「氷河期の森」の風景を中心に市民に撮影・提供してもらった画像から動画を制作し，当館のイベントやYouTubeで公開する。

日程：10月～3月

(3) 調査・研究事業

①調査研究報告書の刊行

館職員・ボランティアなどによる考古学に関する調査研究活動及び研修活動の成果などを縄文の森広場と合同で「調査研究報告書」として刊行する。

②遺構の各種分析調査

地下の遺構面の維持・管理のため，専門家の指導・助言を頂きながら，適正な保存・管理を行うために遺跡保存処理検討会を2回実施する。また，遺跡の状態を把握するための各種分析調査を実施する。

保存処理検討会　第1回：10月1日・第2回：2月予定

③野外展示「氷河期の森」植生検討会・植生景観調査

野外展示「氷河期の森」の植栽の維持管理のため，植生検討会2回と植生調査を実施し，氷河期の森の維持について専門家の指導を受け，補植などを実施する。また，植生検討会は縄文の森広場と連携して実施し，植物の構成樹種の相違を活かした2つの異なる森づくりとその利活用を行う。

第1回植生検討会：
　地底の森ミュージアム・縄文の森広場
　5月【中止】
第2回植生検討会：
　地底の森ミュージアム・縄文の森広場　11月予定
　植生調査・景観調査　6～12月【10月～に変更】

④常設展示の見直しに関する指導・助言

開館から20年を経過し，常設展の内容が最新の研究成果にそぐわない，反映していないところが増えてきた。来館者に正しい情報をより分かりやすく伝える展示内容や方法を検討する必要があるため，有識者を招き指導・助言をいただく。

(4) 縄文の森広場との連携事業

・山田上ノ台式縄文乃春　5月9日（土）【中止】
・山田上ノ台式縄文乃夏　8月9日（日）【中止】
・山田上ノ台式縄文乃秋　10月24日（土）【内容変更】
・地底の森フェスタ2020　10月12日（月）
　【内容・日程変更】
・山田上ノ台式縄文乃冬　2月7日（日）

(5) 資料の収集・保管

①常設展示関係

仙台市教育委員会で所蔵する常設展示に関する資料を借用し保管する。

②保管資料

仙台市教育委員会が所蔵する旧石器時代・古墳時代に関する資料及び関係機関からの寄贈図書，購入図書，企画展実施のために製作した資料，寄贈資料などを収蔵する。

(6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。

(7) 刊行物

①ミュージアム通信　年4回
②企画展刊行物（展示図録，ポスター，チラシ）
③年報（縄文の森広場と合本）
④調査研究報告書（縄文の森広場と合本）
⑤リーフレット，パンフレット

6. 利用案内

1　所在地

〒982-0012　宮城県仙台市太白区長町南四丁目3-1

2　電話およびファクシミリ

TEL 022（246）9153　　FAX 022（246）9158

3　開館時間

午前9時～午後4時45分（入館は午後4時15分まで）

4　入館料・共通券

区　分	個人	団体	共通入場券
一　般	460円	360円	490円
高校生	230円	180円	280円
小・中学生	110円	90円	150円

・団体は30人以上，引率者は30人につき1人無料
・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

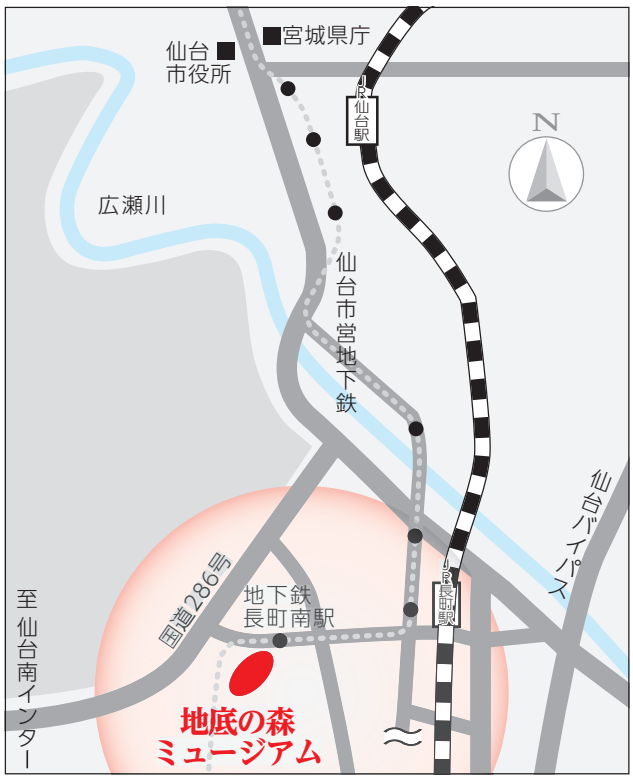
5　休館日

月曜日（休日は開館）
休日の翌日（休日，土・日曜日にあたる日は開館）
1月～11月の第4木曜日（休日は開館）
くん蒸のため臨時休館（12月24日～12月27日）
年末年始（12月28日～1月4日）

6　交通案内

・地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分
・JR東北本線長町駅より西へ徒歩約20分
・東北自動車道 仙台南インターより東へ約7km

E-mail:t-forest@coral.ocn.ne.jp
URL:http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/



[仙台市縄文の森広場]

1. 平成31年度・令和元年度事業報告

(1) 展示事業

① 常設展示

○エントランスホール

当館の概要及び特長を紹介する映像が流れ，当館が完成するまでの軌跡を円形の壁面パネルにて展示している。壁面にある展示ケースでは，体験作品の見本やミニ企画展の拡張展示など，定期的に展示内容を変更している。令和元年12月1日(日)～令和2年3月1日(日)は，子年にちなんで子形土製品をプレゼントする企画を行い，さらにその展示も行った。期間中，プレゼントを受け取られた来館者(期間内に2回展示室見学・体験した方，もしくは子年生まれの方)は合計164人であった。

展示ケース横では，麻製の服やバンダナなどの装飾品を来館者が自由に試着できる縄文ファッションコーナーを用意している。当館ボランティア製作の編布服や複式炉模型の展示や，オリジナルグッズの販売も行っている。

○ガイダンス展示室

＜体験導入室1＞「展示1　縄文ムラを発掘する」

山田上ノ台遺跡の発掘調査成果について，各種パネルや出土資料の展示などをとおして紹介している。床面には竪穴住居の出土状況写真も展示している。また発掘の原理，調査の実際などを模型やVTRを使って紹介している。

縄文ムラを発掘する

＜体験導入室2＞「展示2　縄文ムラがよみがえる」

山田上ノ台の縄文ムラの情景を模型で再現している。

・縄文学ラウンジ

縄文時代に関連した調べ学習ができるように，パソコンや関連図書を整備している。加えて縄文時代に食べられていたと考えられる木の実や雑穀などの実物も展示，紹介している。

縄文学ラウンジ

・縄文土器　年表＆パズル

約12,000年間続いた縄文時代の，時期ごとの土器型式の違いを，仙台市内の遺跡とともに紹介するパネルと，3つの代表的な型式をもとに復元した土器の立体パズルを展示している。

・縄文時代の環境復元

縄文時代の植物環境についての説明パネルと，花粉が顕微鏡で実際どのように観察できるのか，モニター展示している。

・土器，石器がおしえてくれること

土器に残された痕跡から分かること，石器の用途などを紹介している。

＜体験導入室2＞「展示3　縄文ムラのくらしが見える」

・縄文人のすまいとくらし

竪穴住居の内部の様子を模型で紹介して，土器や石器などの出土品からわかった縄文人の生活を紹介している。

竪穴住居の模型

② 企画展示

今年度は，春は「仙山交流」をテーマに，縄文時代の人々の生活などを仙台市内及び周辺の遺跡と山形県内の遺跡を

交互に紹介し，夏からは「東北の縄文遺跡」をテーマに，写真パネルや出土した遺物を中心に展示する目的で3回実施した。

ⅰ）春のコーナー展示

「仙山交流 in 仙台―下ノ内浦遺跡と出土遺物―」

○会期：平成31年3月15日（金）～6月9日（日）

○開催日数及び入館者数：72日間　4,293人

○展示内容：仙台市太白区にある下ノ内浦遺跡に焦点をあてて展示を行った。仙台を代表する縄文時代後期の遺跡について，発掘調査の写真パネルと出土した遺物などを紹介した。

○展示構成：展示趣旨･遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル･写真パネル，出土した縄文土器，石器など。

ⅱ）夏のコーナー展示

「東北の縄文遺跡①山形県尾花沢市漆坊遺跡」

○会期：7月13日（土）～10月20日（日）

○開催日数及び入館者数：84日間　2,681人

○展示内容：山形県尾花沢市に所在する縄文時代晩期の漆坊遺跡から発見された縄文土器や石器などに焦点をあてて展示し，山形県内の縄文遺跡の理解を深めてもらうことを目的とした。

○展示構成：展示趣旨・遺跡位置図及び遺跡紹介文字パネル，遺跡や遺物の写真パネル紹介，漆坊遺跡出土の遺物など。

夏のコーナー展示

ⅲ）冬のコーナー展示

「東北の縄文遺跡②秋田市上新城中学校遺跡」

○会期：12月1日（日）～2月11日（火・祝）

○開催日数及び入館者数：54日間　717人

○展示内容：秋田県秋田市に所在する縄文時代晩期の上新城中学校遺跡から発見された縄文土器や石器などに焦点をあてて展示し，柵で囲われた縄文の集落について理解を深めてもらうことを目的とした。

○展示構成：展示趣旨･遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル･写真パネルなど。

③　野外展示

ⅰ　縄文ムラと広場

野外には，竪穴住居を復元し，その他の遺構を表示している縄文ムラゾーンと，植物栽培などを行う広場ゾーンがある。それらの周りにはクリやコナラなどの森を復元し，縄文時代の環境を含めて，集落を再現している。

縄文ムラの環境の復元

・縄文ムラ（野外展示の東半部）

発掘調査では38棟の竪穴住居跡をはじめ，貯蔵穴，落とし穴などが多数見つかっており，各遺構は主に見晴らしの良い台地の縁辺に沿って造られている。野外の東側には同時期に建っていたことがわかった竪穴住居3棟を復元し，また周囲には貯蔵穴や落とし穴，ゴミ捨て場などの遺構を表示し，縄文時代のムラの様子を再現している。

・復元住居について

3棟の竪穴住居の復元については，いずれもクリ材で骨組みを造り，土屋根タイプの構造を採用している。その中の14号住居はガイダンス展示室内にも一部を復元している。14号住居は地面を円形に掘り凹めて平らな床をつくり，8本の柱を立て，屋根は土で葺いた竪穴住居である。

14号復元住居（左）と9号復元住居（右）

入口にあたる床の南側には，小石で囲まれた土器と大きな河原石の石組みなどからできた複式炉と呼ばれる大きな炉がある。

・広場（野外展示の西半部）

当時の広場と推定される場所を含めて西側一帯は，野外での縄文体験やイベント，縄文人が育てていた作物の栽培，体験活動を兼ねた発掘調査などを行う場として利用している。

ⅱ　植生

野外にはムラや広場とともに，縄文時代の森の様子を推定復元している。当時の植生についてはこれまでの研究で，縄文ムラの近くには現在の雑木林に近い落葉広葉樹林の豊かな森が広がっていたことがわかっている。これらを参考にして，高木はクリ，クルミ，トチ，コナラなど，低木はタラノキ，ガマズミ，ミズキ，ニワトコなど，草本ではササ，チガヤ，キキョウなどを植栽している。また，「植生検討会」での指導・助言を受けて，森の維持管理・充実を図っている。

植生の復元

ⅲ　縄文畑

野外広場の北西部には，縄文時代に栽培されていた可能性がある作物や有用植物の見本畑がある。現在はヒエ・アワ・キビの雑穀やエゴマ・ツルマメ・ヤブツルアズキの他に，アケビ，ヤマブドウ，カラムシなどを育てている。

縄文畑

蔓植物栽培棚

(2) 普及啓発事業

①　夏休み子ども考古学教室

小学生と保護者がさまざまな縄文時代の体験活動を実施しながら縄文時代に関する理解を深め，縄文人の生活の様子や知識を学ぶ機会とすることを目的に実施した。火おこし・木の実のすり潰し体験・縄文風クッキーづくりなど親子で楽しめるメニューの体験活動を行った。

○8月18日（日）　10:00 ～ 14:00

参加者：15組42人

夏休み子ども考古学教室

②　長期休暇特別イベント

より多くの市民に当館に興味関心を持っていただくことを目的とし，市内小中学校の長期休暇期間にあわせて，普段とは異なる体験活動メニューを無料で実施した。

○夏休み特別イベント

8月4日（日）

参加者：延べ97人

グリーンタフでアクセサリーづくり

○秋休み特別イベント

10月12日（土）

※台風19号の影響により中止

○冬休み特別イベント

1月5日（日）

参加者：延べ101人

モミジの草木染めコースターづくり

○春休み特別イベント

3月29日（日）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止

長期休暇特別イベント

③　発掘体験教室

縄文人が生活していた時代の土に触れ，遺構や遺物を発見するなどの発掘体験を通して，歴史や当時の生活に興味を持ってもらうことをねらいとした。昨年度に引き続き，遺物包含層を調査対象として仙台市教育委員会文化財課が調査を実施した。期間中の10月16日（水）・20日（日）に小学5年生以上を対象として実施した。

講師…文化財課職員・当館職員

時間…10:00 ～ 12:00

○10月16日（水）　参加者：9人

○10月20日（日）　※大雨の影響により中止

発掘体験教室

④　発掘資料整理体験教室

山田上ノ台遺跡の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物に触れ，歴史を身近に感じてもらうねらいで実施した。実際の整理作業と同じような洗浄や拓本取りの作業体験が主な内容であった。

講師…当館職員

○12月1日（日）　10:00 ～ 14:00

参加者：4人

発掘資料整理体験教室

⑤　縄文の知恵と技を学ぶ

本事業は，縄文時代の人々の生活の技術や知恵を学ぶために大人も対象としてモノづくりを行った。

○縄文人の道具箱－石器編

黒曜石を利用して石器づくりを行った。

日時：9月8日（日）　10:00 ～ 15:00

参加者：10人

○ How　to　火起し

様々な火起しの方法について，実際に体験しながら学習する予定であったが，参加者はなかった。

・日時：11月10日（日）　10:00 ～ 12:00

縄文の知恵と技を学ぶ

⑥　週末体験講座

火おこしや石器などによる調理体験を主体に竪穴住居周辺や工房を主会場とした「縄文生活体験」のほか，季節感を活かしたさまざまな縄文体験を実施した。各回定員を一般20人とし，事前申込み制で行った。今年度は6回を計画し，5回の実施となった。

参加者アンケートによる満足度はどの回も高く，縄文時代に興味関心を持ってくれている様子がうかがえた。

○6月16日（日）　16:00 ～ 19:30
「縄文生活体験」　参加者：18人
○7月21日（日）　16:00 ～ 19:30
「縄文生活体験」　参加者：13人
○9月14日（土）　15:00 ～ 18:30
『縄文生活体験』　参加者：12人
○11月17日（日）　10:00 ～ 14:00
「干支の土製品づくり」　参加者：32人
○1月26日（日）　10:00 ～ 14:00
「おもしろ縄文体験　縄文クッキーに挑戦！」
参加者：15人
○3月8日（日）　10:00 ～ 12:00
「ただの石？石器？どうやってみわけるの？　～考古学者のお仕事体験～」
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止

縄文生活体験

縄文クッキーに挑戦！

⑦　縄文講座

多様な視点から，縄文時代についての理解を深めることを目的とした講座で3回実施した。

○第1回：「鳥海山麓に営まれた低湿地遺跡－山形県遊佐町小山崎遺跡－」
・日時：12月8日（日）　13:30 ～ 15:00
・参加者：51人
・講師：渋谷咲智氏（遊佐町教育委員会）
○第2回：「柵に囲まれた縄文集落を掘る－秋田市上新城中学校遺跡－」
・日時：1月19日（日）　13:30 ～ 15:00
・参加者：74人
・講師：　根岸洋氏（国際教養大学）
○第3回：「最新技術が解き明かす縄文漆工の技」
・日時：2月16日（日）　13:30 ～ 15:00
・参加者：54人
・講師：片岡太郎氏（弘前大学）

第 2 回縄文講座

⑧　縄文まつり

本事業では季節ごとに特色ある縄文まつりを開催した。特別体験，ゲーム，縄文食試食などの様々な体験活動を中心として実施した。コンサートタイムでは，市民サークルやプロの音楽家らに演奏を披露していただいた。

○縄文春まつり
・日時：5月11日（土）　10:00 ～ 15:00
・参加者：337人
・内容：土器の野焼き，弓矢体験，縄文ファッション，よりよりストラップ，縄文風ドリンク，クイズラリー，七ヶ浜町歴史資料館コーナー，「ソニド デル ビエント」による演奏など。

七ヶ浜町歴史資料館コーナー

ソニド デル ビエント

○縄文夏まつり
・日時：7月15日（月・祝）　10:00 ～ 15:00
・参加者：386人
・内容：カラムシの糸づくり，縄文クイズラリー，縄文ファッション，縄文風ドリンク，地底の森ミュージアムコーナー，「オカリナ縄文会」による演奏など。

オカリナ縄文会

○縄文秋まつり
・日時：10月12日（土）　10:00 ～ 15:00
※台風の影響で中止

○縄文冬まつり
・日時：2月9日（日）　10:00 ～ 15:00
・参加者：518人
・内容：石器づくり見学，ワラダ投げコーナー，縄文スープの試食，ぬり絵・紙工作，地底の森ミュージアムコーナー，「和太鼓飛竜の会」・「オカリナ縄文会」・「高橋泉と縄文ジャズオーケストラ」による演奏など。

和太鼓飛竜の会

高橋泉と縄文ジャズオーケストラ

⑨　縄文のまつり復元と創造プロジェクト

事業団の自主事業で，市民と協働で縄文時代のまつりを復元・創造するプロジェクト。楽器製作などの活動を6月8日（土）～ 10月17日（木）にかけて5回行い，延べ65人が参加した。その成果の報告として10月19日（土）に縄文の森広場を会場として「縄文人の記憶の宴」を実施した。

○縄文人の記憶の宴
ⅰ）山田上ノ台遺跡の発掘調査見学会
縄文時代の生活やまつりの様子について理解を深めてもらうために，山田上ノ台発掘調査現場の見学を行う。
・日時：10月19日（土）　15:00 ～ 16:00（天候不良のため中止）
ⅱ）「縄文人の記憶の宴」
本編は，縄文時代のまつりを，市民や音楽家，劇団員などと協働して企画・運営を行い，「火起こし」・「縄文風の演

奏」・「祀りの儀式」・草舟を燃やし「炎の儀式」・「舞の儀式」を実施した。

・日時：10月19日（土）　16:00 ～ 18:00
・参加者：98人

縄文人の記憶の宴

⑩　学校・地域連携促進事業

事業団の自主事業。山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け，近隣の小中学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深めることで，縄文の森広場がより地域に根差した施設となることを目的とする事業である。

ⅰ）「ドキ土器チョコレイト」

山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらうため，ミニチュアサイズのシリコン型にチョコレートを流しこんで，土器チョコをつくるイベントを実施した。

・日時：2月11日（火・祝）
　10:00 ～ 12:30，13:00 ～ 15:00
・参加者：7組15人
・日時：3月14日（土）
　10:00 ～ 12:30，13:00 ～ 15:00
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止

ⅱ）「土器を食べちゃえ！～土器片形クッキー“ドッキー”土偶形クッキー“ドグッキー”をつくろう～」

山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい，土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりに加え，今年度は，あらたに土偶形そっくりのクッキー「ドグッキー」づくりを通じて，山田上ノ台遺跡及び縄文文化について学ぶイベントを外部講師を招いて実施した。

・日時：2月22日（土）　9:30 ～ 12:00
・参加者：15人
・講師：下島綾美氏（お菓子作り考古学者ヤミラ）
・対象：上野山児童館利用小学生の親子

ドキ土器チョコレイトづくり

ドッキー，ドグッキーづくり

⑪　野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける「じょうもん」」

縄文時代の植生を復元した野外展示を，地域住民や学校と共につくりあげることを目的とした事業で，近隣の太白小学校1年生を対象として，太白山自然観察の森でクリやクヌギなどの種を採取し，植え付けを行った。

第1回
・日時：10月4日（金）　9:30 ～ 11:30
・対象：太白小学校1年生
・会場：仙台市太白山自然観察の森
・参加者：28名

第2回
・日時：3月6日（金）　10:50 ～ 11:35
・対象：太白小学校1年生
・会場：太白小学校
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止

森でみつける「じょうもん」

⑫　3館連携事業

平成26年度から縄文の森広場・山田市民センター・上野山児童館の3館が共催している事業である。縄文時代の生活体験を通して，山田上ノ台遺跡周辺の自然と歴史に親しみながら，学区を超えた子供同士の交流を図り，地域活動をしていくことを目的としている。

令和元年度は，山田市民センターとの合同企画事業とし，地域で子育てを支える環境づくりの一助となるべく，小学生が夏休みに地域の大人や高齢者に見守られて色々な活動にチャレンジしながら学ぶ「サマースクール山田」の一環として「縄文スープを作ろう」を実施した。

・日時：7月24日（水）　10:00 ～ 12:30
・参加者：小学生18人
・会場：縄文の森広場

縄文スープを作ろう

⑬　運営懇談会

当館の活動を紹介し，地域の町内会や小・中学校，市民センターなどの方々の意見をいただき，事業に反映させるために運営懇談会を2回開催した。

第1回　7月26日（金）　19人出席
第2回　2月14日（金）　16人出席

(3) 体験活動事業

①　各種体験活動

ⅰ）随時体験

当施設の特色の一つが，来館者が予約なしでいつでもメニューを選んで実施できる随時体験である。体験は一部の体験メニューを除き，室内の体験活動室で行っている。今年度は昨年度に引き続き全18種類の体験メニューを用意した。

体験内容は，土器づくり（特大･大･小），土偶づくり（大･小），手形・足形づくり，土笛づくり，土面づくり，勾玉づくり，石のアクセサリーづくり，シカの角・サメの歯のアクセサリーづくり，編布コースター・マットづくり，釣針づくり，火おこし体験，石器づくり（5年生以上対象）などである。勾玉づくりや石のアクセサリーづくり，粘土に関する体験の人気が高い。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，2月29日より随時体験を休止した。

随時体験

ⅱ）団体の予約体験

平成31年度・令和元年度は122組の団体が見学・体験を行い，延べ人数は4,533人である。団体の内訳は市内の小学校を中心に，県外の小・中学校や子供会，デイサービスセンターなどである。体験活動は勾玉づくりや石のアクセサリーづくり，粘土に関する体験の人気が変わらず高い。中学校の自主研修や県外の修学旅行での利用も多い。

校外学習

ⅲ）出前講座

小学校・市民センターなどの依頼で，職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行った。今年度は市内外の小学校や市民センターなど11団体に対応した。

出前講座

ⅳ）国際交流

東アジア考古学研究所（大韓民国）より招聘を受け，大韓民国の京畿道漣川郡全谷里で5月2日～6日に行われた「第27回漣川旧石器祭（教育博覧会・国際ワークショップ）」に地底の森ミュージアム職員と共に参加した。

漣川旧石器祭

②　学校教育との連携

ⅰ）小・中学生の利用

学校の授業の一環として，地底の森ミュージアム及び当館が交通費（バス代）を負担し，体験活動と展示見学を組み合わせた学習活動を行う利用学習事業には，市内28の小学校1,950人の参加があった。開館以来継続して実施してきた利用学習事業が徐々に周知され，さらに平成23年度より新学習指導要領を意識した学校側の授業形態の変化が理由と考えられる。本事業の詳細は当館ホームページ上にて公開している「利用学習実践報告」を参照されたい。

そのほか，社会科や総合的な学習の時間，社会見学など様々な目的で，市内及び県内の学校利用が多数みられた。最近は自主研修（班別）で，福島の小中学校の利用が目立つ。修学旅行では秋田・岩手・山形県の小・中学校の利用が増えてきた。勾玉づくりなどの縄文体験を中心とした利用が目立っており，体験活動を重視する当館らしい利用法が選ばれている。

利用学習

ⅱ）博物館実務実習

大学で行われている博物館学の講義の一環として，学芸員資格取得のための実習を10月11日（金）～15日（火）に行った。館運営に関する講座のほか，縄文秋まつりの準備，発掘体験教室の準備と実施，体験活動の指導法などの実習を行った。

参加者：東北学院大学　学生1人

ⅲ）教職員機関研修

学校教育との連携をはかる事業の一環として，市内小中学校教職員を対象に参加者を募集し，8月2日（金）に教職員利用研修会及び機関研修を行い，当館の概要説明や体験活動の周知を図った。

参加者：市内小学校教員　1人

ⅳ）職場体験活動

5，8，11月に市内中学校5校から職場体験の申し込みがあり，対応した。当館の勤務内容を体験するとともに，事業内容などについても説明を行った。これまで来館者の立場で当館を利用した生徒もおり，職員にとっても来館者の生の声を聴くことのできる貴重な機会となった。

参加：長町中学校3人，八木山中学校4人，柳生中学校3人，人来田中学校4人，山田中学校3人

(4)ボランティア活動事業

①　ボランティア育成講座

ボランティア育成講座新規応募者1人および修了者（ボランティア）63人を対象に計6回の講座を開催した。内容はボランティア活動の内容，体験活動の技術研修，類似する他施設等の視察などである。類似施設の視察研修については，地底の森ミュージアムと連携して行い，両館のボランティアが交流する機会とした。

第1回4月7日（日）　10:00 ～ 12:00〔参加者：1人〕
　オリエンテーション・施設見学・火起し
　講師：館職員

第2回4月21日（日）　10:00 ～ 15:00〔参加者：5人〕
　土器・土製品づくり　講師：館職員

第3回5月11日（土）　9:00 ～ 15:00〔参加者：1人〕
　野焼き　　講師：館職員

第4回6月2日（日）　10:00 ～ 12:00〔参加者：2人〕
　各種アクセサリーづくり　講師：館職員

第5回6月23日（日）　13:00 ～ 16:00〔参加者：1人〕
　修了式・ボランティア活動の実際・定例会
　講師：ボランティアスタッフ・館職員

第6回10月9日（水）　8:00 ～ 17:00
　〔参加者：両館合計23人〕
　発掘調査の視察研修（南相馬市方面）

さらに，11月24日（日）10:00 ～ 14:00尾関清子先生（東海学園女子短期大学名誉教授）を講師に，「編布」をテーマとしたボランティア育成講座を行い，14人が参加した。

視察研修

編布講座

②　ボランティア会との連携

仙台市縄文の森広場ボランティア会は，当館の運営をあらゆる面で支えるボランティアスタッフが運営する組織である。平成18年5月28日に設立され，今年度は64人が会員となった。

館と会との連絡・調整は，毎月第4日曜日の定例会を中心に行っている。ここでは，館から翌月の事業に対する協力要請を説明したり協議したりしながら，サポート体制の構築をはかっている。

活動内容としては，各種体験活動における補助のほか，館外でおこなわれるワークショップにも積極的に参加していただいている。また，ミュージアムグッズの製作もおこなっている。ボランティアによる手作りの「勾玉」・「編布」・「土製品」はいずれも好評を得ており，修学旅行の子どもたちや家族づれに特に人気が高い。また，新たに「石器ストラップ」が加わった。

以上のような，多岐にわたるボランティア会のさまざまな活動は，当館をより魅力的なものとするうえで非常に重要な役割を担っている。館とボランティア会との連携を，今後より多方面に展開し，強化していきたい。

(5) 調査・研究事業

① 体験プログラムの開発

体験施設である当館にとって，新規体験プログラムの開発は来館者に飽きを感じさせないための重要な用件である。既存体験メニューの見直し，体験内容と縄文文化をより分かりやすく紹介する方法，および新規プログラムの開発に取り組んだ。

② 復元住居の維持管理

当館の野外広場にて復元・公開している土屋根式竪穴住居を，より良好な状態で維持管理する方法について検討を行った。

③ ボランティアスタッフとの共同調査

縄文時代および当館の管理運営に関わる様々な内容について，ボランティアスタッフと共同で調査活動を行った。

④ 調査研究報告書

仙台市富沢遺跡保存館と合本で，『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2019』を発刊した。「仙台市川前遺跡の出土圧痕レプリカ法の調査成果－仙台平野における縄文晩期中葉の植物利用の解明にむけて－」「小規模博物館の職員としてICOM京都大会に参加して」の２本の報告のほか，地底の森ミュージアムからも２本の報告が行われている。

2. 利用状況

平成31年度・令和元年度の開館日数は295日で，その間の全利用者数は25,462人であった。前年度の30,907人に比較すると，5,445人減となっている。

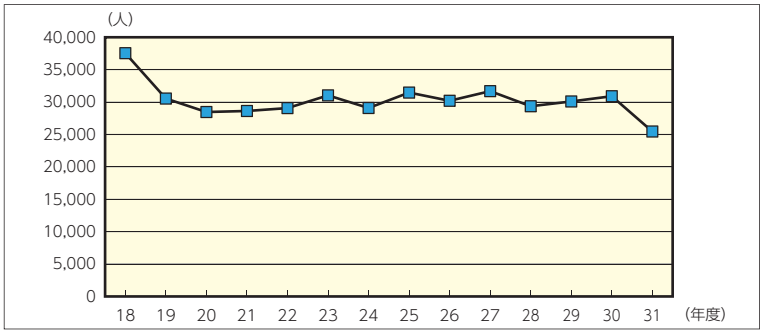
体験活動者数は11,201人（団体の複数体験者も含む）で，全利用者数の44％を占めており，例年とほぼ同様の傾向であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，2月29日より随時体験を休止した。体験活動内容では勾玉づくりが全体の37.1％を占めて最も多く，続いて石のアクセサリーづくり21.7％，ミニ土器・土偶づくり14.8％と続く。

なお，平成18年7月15日の開館から令和2年3月31日までの入館者の累計は423,585人である。

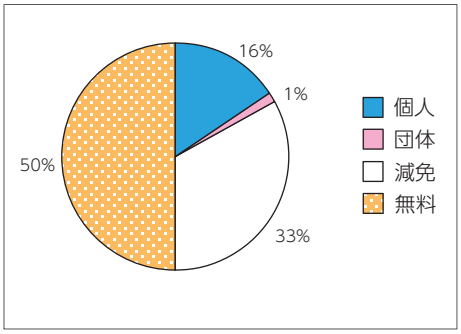
入館状況　（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

月	有料							無料					体験活動者		合計
	個人			団体			計	減免			無料入館	計		内，団体体験重複者（−）	
	一般	高校生	小・中学	一般	高校生	小・中学		一般	高校生	小・中学					
4	241	4	53	0	0	0	298	113	0	694	494	1,301	1,370	622	2,347
5	333	3	72	12	0	88	508	296	0	1,449	901	2,646	1,910	820	4,244
6	192	2	126	2	0	0	322	88	0	964	642	1,694	1,645	1,061	2,600
7	271	3	11	3	0	34	322	103	0	276	833	1,212	1,161	236	2,459
8	413	3	69	0	0	0	485	197	0	260	696	1,153	1,306	99	2,845
9	202	0	20	0	0	0	222	127	0	228	642	997	984	63	2,140
10	139	0	8	38	0	30	215	85	0	155	896	1,136	744	256	1,839
11	136	0	11	0	0	0	147	141	0	190	1,130	1,461	769	130	2,247
12	80	0	5	0	0	0	85	42	0	42	600	684	415	13	1,171
1	143	0	6	0	0	0	149	66	0	46	532	644	405	17	1,181
2	155	1	5	2	0	0	163	77	0	126	1,088	1,291	492	63	1,883
3	74	5	5	0	0	0	84	35	0	28	359	422	0	0	506
計	2,379	21	391	57	0	152	3,000	1,370	0	4,458	8,813	14,641	11,201	3,380	25,462

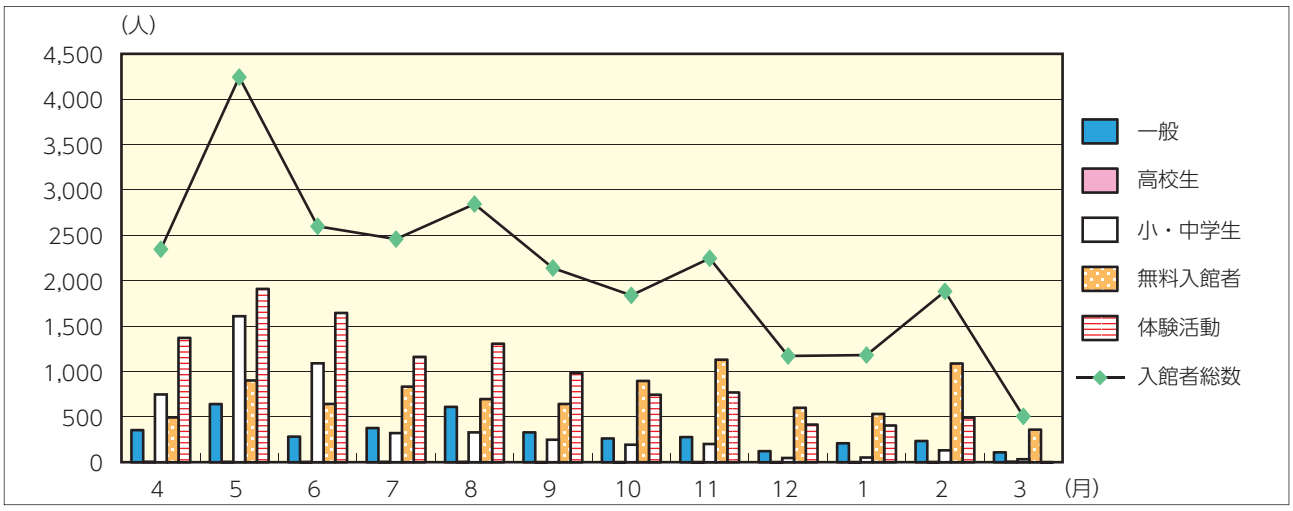
開館年度からの入場者推移



入館者内訳



月別入館者数

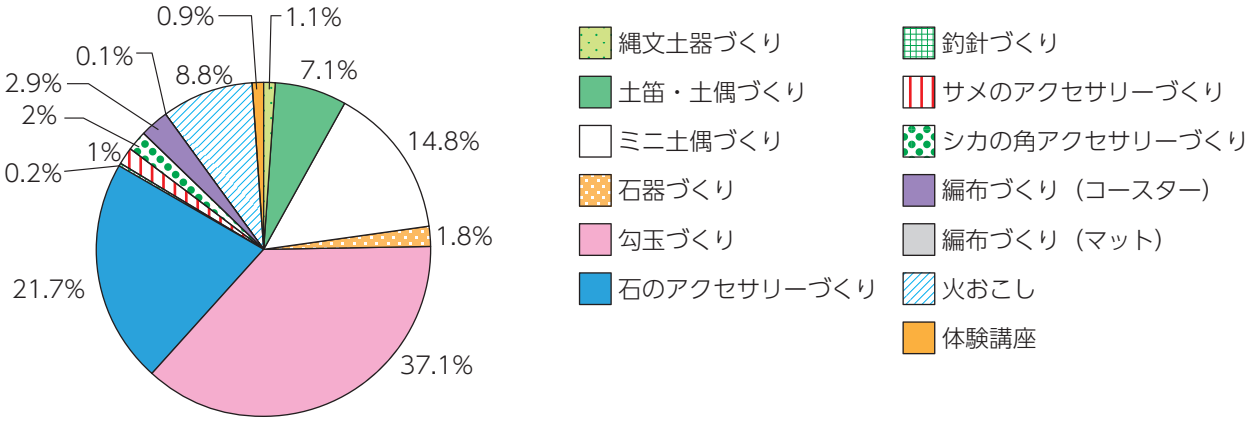


体験活動者数

（団体の複数体験も含む）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，令和２年２月29日より随時体験を休止　（単位：人）

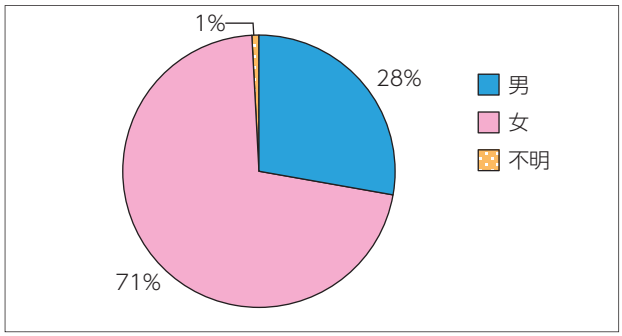
月	体験メニュー													合計
	縄文土器づくり	土笛・土偶づくり	ミニ土製品づくり	石器づくり	勾玉づくり	石のアクセサリーづくり	釣針づくり	サメの歯アクセサリーづくり	シカの角アクセサリーづくり	編布づくり（コースター）	編布づくり（マット）	火おこし	体験講座	
4	5	145	105	28	505	192	2	12	16	32	0	93	0	1,135
5	2	178	231	35	506	401	5	20	16	14	0	113	0	1,521
6	1	105	70	7	786	413	0	17	14	17	0	97	17	1,544
7	77	12	51	12	426	191	1	11	16	24	4	77	13	915
8	4	22	164	28	310	156	2	38	27	46	0	127	15	939
9	2	19	132	16	274	158	1	13	7	15	0	67	22	726
10	1	17	203	12	141	70	2	10	9	31	0	60	0	556
11	5	100	94	10	138	145	0	9	13	50	1	78	17	660
12	4	6	135	3	56	66	2	9	9	10	0	23	0	323
1	1	20	72	4	65	48	3	11	15	19	1	35	0	294
2	1	10	69	4	120	104	2	12	14	5	1	20	0	362
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	103	634	1,326	159	3,327	1,944	20	162	156	263	7	790	84	8,975



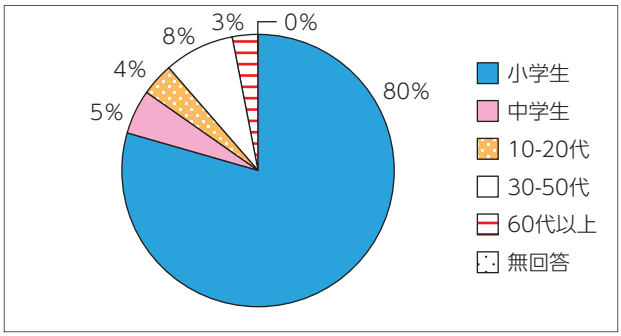
3. 入館者アンケート

開館直後より１階の体験工房（冬期は体験活動室）と２階の展望休憩室の２箇所に，今後のより望ましい運営のあり方を探るために入館者アンケート用紙を設置しており，総数132人の方に回答をいただいた。約8割は小学生であり，その他の大人の方々も含めて，貴重なご意見やご提案を多数お寄せいただいた。その中には，２階の展望休憩室に設けた「お答えしますコーナー」で回答し，館運営にすぐ取り入れさせていただいたものもある。その他のご意見も今後の改善にできるだけ反映させていきたいと考えている。

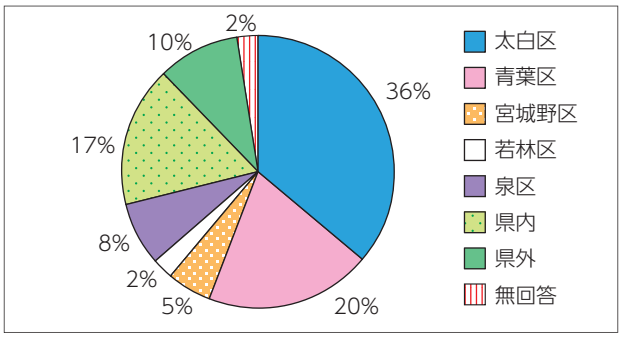
男女比



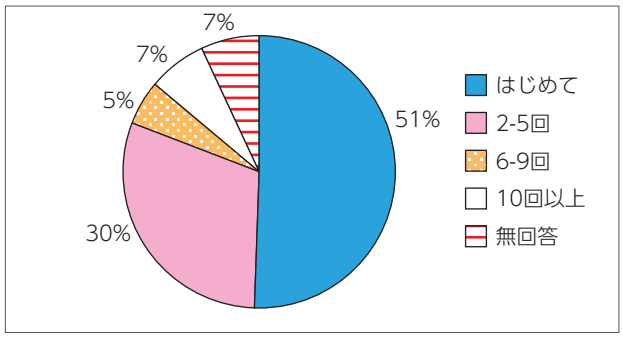
年代



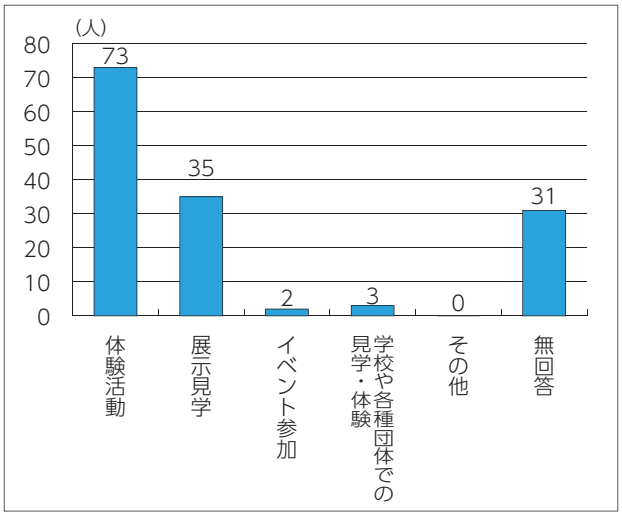
住まい



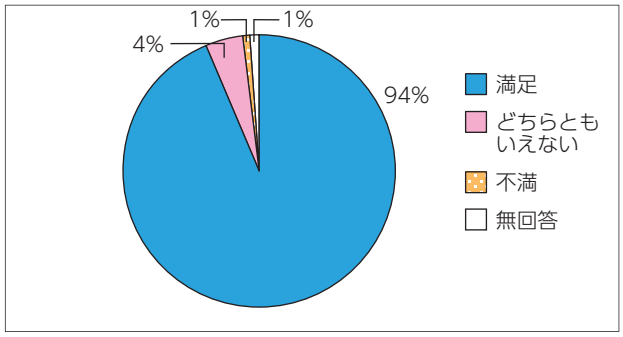
来館回数



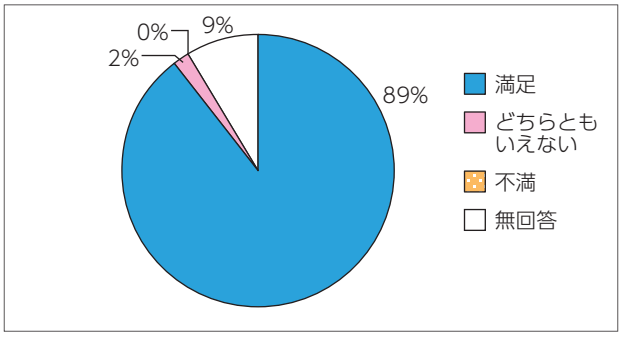
来館目的（複数回答）



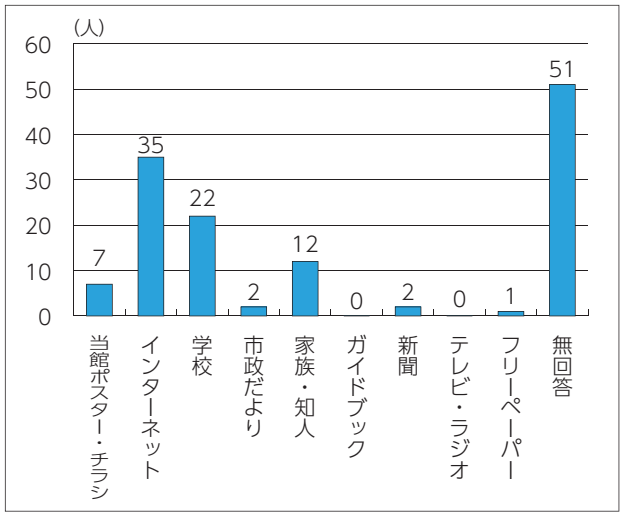
見学の満足度



体験の満足度



何で知ったか（複数回答）



4. 令和２年度事業計画

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として，令和2年4月11日(土)～5月17日(日)が臨時休館となったため，計画していた事業の内容及び日程等を変更した。また，5月19日(火)の再開館以降の事業についても内容・日程等を変更したものが多く，現時点での変更内容は【　】内に示した。

基本方針

仙台市先史遺跡保存活用施設条例及び指定管理事業計画に基づき，「人間と環境を考えるランドマーク」として地底の森ミュージアムと相互補完し合いながら，山田上ノ台遺跡の保存と公開及び縄文時代の資料の保存・調査・活用を行う。また様々な展示・体験・講座等を通して「歴史」に学ぶ活動を展開する。併せて当館の特色として調査・研究活動の成果を基にした「自然と共生した縄文人の知恵」を体験活動などに展開し，芸術分野や他分野との積極的な交流を推し進めながら，各年代層に応じた豊かな「学び」の機会を提供する施設を目指す。

(1) 展示事業

① コーナー展示

コーナー展示3回を実施する。

・春のコーナー展示
「東北の縄文遺跡③－岩手県山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡－」
3月14日(土)～6月7日(日)【10月18日まで会期延長】

・夏のコーナー展示「東北の縄文遺跡④」(仮称)
7月18日(土)～10月18日(日)【中止】

・冬のコーナー展示「東北の縄文遺跡⑤」(仮称)
12月1日(火)～2月11日(木・祝)
【④石巻市中沢遺跡に変更】

・春のコーナー展示「東北の縄文遺跡⑥」(仮称)
3月13日(土)～6月6日(日)【⑤に変更】

② 野外展示「縄文の森広場」植生検討会

第1回植生検討会：縄文の森広場・地底の森ミュージアム　6月上旬予定【中止】

第2回植生検討会：縄文の森広場・地底の森ミュージアム　11月上旬予定

(2) 普及啓発事業

① ボランティア育成講座

新規のボランティア15名を募集し，来館者や参加者により分かりやすい説明や体験活動の補助を行うための研修事業。現ボランティアのスキルアップ研修も兼ねる。

・第1回講座：開講式など
4月12日(日)　10:00～12:00【7月4日(土)に変更】

・第2回講座：土器・土製品づくり
4月26日(日)　10:00～15:00【7月18日(土)に変更】

・第3回講座：野焼き・火起こし
5月9日(土)　10:00～15:00【10月18日(日)に変更】

・第4回講座：勾玉・アクセサリーづくり
6月7日(日)　10:00～15:00【8月9日(日)に変更】

・第5回講座：修了式・「ボランティア活動の実際」
6月28日(日)　11:00～16:00【8月23日(日)に変更】

・第6回講座：類似施設の視察
10月7日(水)　8:30～17:00【中止】

② 縄文講座

縄文時代研究に関する講演会を実施し，最新の研究状況を取り上げる。

・第1回講座「縄文最新研究　最前線①」
12月13日(日)　13:30～15:00

・第2回講座「縄文最新研究　最前線②」
1月17日(日)　13:30～15:00

・第3回講座「縄文最新研究　最前線③」
2月21(日)　13:30～15:00

③ 縄文まつり（コンサート含む）

季節ごとに開催する。春・秋には体験や縄文に関係したゲームなど実施し，夏・冬には体験や縄文に関係したゲームなどのほか，コンサートも実施する。

・山田上ノ台式縄文乃春
5月9日(土)　10:00～15:00【中止】

・山田上ノ台式縄文乃夏
8月9日(日)　14:00～18:00【中止】

・山田上ノ台式縄文乃秋
10月24日(土)　14:00～16:00
【内容の見直し】

・山田上ノ台式縄文乃冬
2月7日(日)　10:00～15:00

④ 夏休み子ども考古学教室

火おこし，アクセサリーづくりなどの様々な体験を行う。

日時：8月22日(土)　10:00～14:00

⑤ 特別イベント

縄文時代や歴史に関わる，普段とは異なる体験メニューを行うイベントを行う。

日程：夏休み(8月2日)，秋休み(10月11日)，冬休み(12月26日)，春休み(3月27日)

⑥ 週末体験講座

様々な作品づくりや生活体験などを実施し，縄文人の技と心を学ぶ。

日時：5月31日，6月14日，9月13日，11月15日，1月24日，3月7日(土又は日／時間は回により異なる)【9月13日(日)より開始】

⑦ 発掘調査体験教室

敷地内で行われる発掘調査に参加する体験，出土遺物の水洗・拓本などの整理作業に参加する体験を行う。

・発掘体験＝10月11日(日)・14日(水)
10:00～12:00

・整理体験＝11月29日(日)　10:00～14:00

⑧ 縄文の知恵と技を学ぶ

本格的な縄文作品づくりを体験する教室を行う。

日時：9月6日(日)，11月7日(土)
各10:00～15:00

⑨ 利用学習事業〈地底の森ミュージアムと合同して実施〉

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主たる対象とし，地底の森ミュージアムと当館の見学と各種の縄文体験による体験学習を行う。

日程：学校側の希望による（通年）
【6月30日(火)以降の受入れに変更】

⑩　施設利用予約

利用学習事業参加校以外の学校，子ども会，町内会等の各種団体を対象として展示解説や縄文体験を行う。【4月以降休止，7月より一部再開】

⑪　随時体験

来館者に様々な縄文体験メニューを提供する。参加者の利便性を高め，より多くの市民が気軽に当館を訪れ体験活動に参加できるよう予約なしで随時受け入れることとする。【4月以降休止，10月3日（土）より一部再開】

⑫　出前講座

学校や市民センターなどからの依頼により，職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行う。【4月以降休止，7月より一部再開】

⑬　教員機関研修〈地底の森ミュージアムと合同実施〉

学校教育との連携事業を推進するために，仙台市内の教職員を対象（定員20名）として当館の概要及び体験活動事業を周知する機会とする。

日時：8月7日（金）　【9月18日（金）に変更】

⑭　野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」

野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために，地域の団体や小学校などと連携した事業で専門家の指導を受けて太白山自然観察の森で生育するクリなどを採取し育てる事業を行う。

太白小1年生を対象　10月頃実施予定

⑮　博物館実務実習

学芸員資格取得をめざす大学生を数名受け入れ，実習を行う。

日程：10月9日～13日（計5日間）

⑯　職場体験・インターンシップ

近隣中学校の要請により，中学2年生を対象とした職場体験の受入れなどを行う。

日時：11月～12月頃（学校の希望による）

⑰　情報発信

・ホームページの更新
・フェイスブックの更新
・館内の情報提供（掲示物：発掘調査情報，他施設イベント情報）

⑱　ボランティア会との連携

・定例会開催と館運営の協力依頼【5月までは定例会中止。来館者と接触を伴う活動は休止中】
・自主的な会活動に対する支援
・ミュージアムグッズの共同開発と制作販売の支援

⑲　地域と連携

町内会などの地域住民の行事に対しては，共催や後援等の形で活動の場を提供しながら支援を行う。

⑳　運営懇談会

7月22日（水）【中止】，2月18日（木）

㉑　専門研修

2月25日（木）

㉒　事業団の自主財源事業

ⅰ　縄文祭復元事業「縄文まつり復元と創造プロジェクト」
・草舟づくり　7月の土日に実施予定【中止】
・縄文人の記憶の宴　10月24日（土）
【10月22日（木）に変更】

ⅱ　学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」
・「ドキ土器チョコレイト」づくり　2月上旬予定
・「土器を食べちゃえ！土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう」　2月後半予定

ⅲ　縄文の森オリジナルグッズ制作販売

ⅳ　展示手法の開発・導入
・3次元データ
・リビング・ヒストリー手法

(3) 調査・研究事業

①縄文時代に関する調査研究
②体験活動メニュー，プログラムに関する調査研究
③復元住居の経年変化等観察記録・分析にもとづく維持管理に関する調査研究
④西側広場一帯の整備に向けた調査研究
⑤ボランティアスタッフとの共同調査研究の実施
⑥上記の研究成果をまとめた調査報告書を地底の森ミュージアムと合本で刊行
⑦2021年度コーナー展示の資料調査

(4) 資料の収集・保管

①仙台市から借用保管している山田上ノ台遺跡等の縄文時代を中心とした資料を適切に管理し，各種事業活動に活かす。
②事業活動の充実を図るため，縄文時代を中心とした資料，及び縄文時代に関する文献の収集を行う。

(5) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。

(6) 刊行物

①ミュージアム通信　　年4回(6月・9月・12月・3月)
②イベント紹介チラシ　年2回(9月・3月)
③年報　10月末刊行【地底の森ミュージアムと合本で】
④調査研究報告書　年度末刊行(地底の森ミュージアムと合本で)
⑤リーフレット，パンフレット，封筒

5. 利用案内

●所在地

〒982-0815　仙台市太白区山田上ノ台町10番1号

●電話およびファクシミリ

TEL　022(307)5665　　FAX　022(743)6771

●開館時間　　午前9時～午後4時45分
(体験受付は午前9時～11時30分／午後12時30分～3時，入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

区　分	個人	団体	共通入場券
一般	200円	160円	490円
高校生	150円	120円	280円
小・中学生	100円	80円	150円

・団体は30人以上，引率者は30人につき1人無料
・「地底の森ミュージアム」「縄文の森広場」共通入場券

●休館日

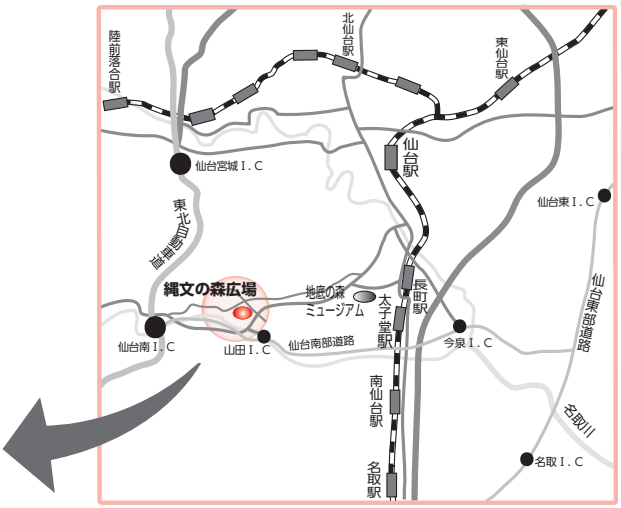
月曜日(休日は開館)・休日の翌日(休日，土曜・日曜日にあたる日は開館)・1月～11月の第4木曜日(休日は開館)・年末年始(12月28日～1月4日)

●交通案内

【バス】
県庁市役所～仙台駅～長町駅より宮城交通バス「秋保」「日本平」「茂庭台」「南ニュータウン」行きにて，八木山動物公園駅バス停より宮城交通バス「日本平」行きにて
「山田・太白消防署前」停留所下車徒歩5分

【車】
東北自動車道：仙台南インターから約4km
仙台南部有料道路：山田インターから約1km

E-mail：j-hiroba@cap.ocn.ne.jp
URL：http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~jyoumon/



地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報 ２０２０

発　行　日　令和2年10月30日

発　　行　仙台市教育委員会
〒980-0011　仙台市青葉区上杉1-5-12 上杉分庁舎　ＴＥＬ（022）214-8892

編　　集　（公財）仙台市市民文化事業団　仙台市富沢遺跡保存館
〒982-0012　仙台市太白区長町南4-3-1　ＴＥＬ（022）246-9153

印　　刷　今野印刷株式会社
〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町2-10　ＴＥＬ（022）288-6123

Waterless
Printing. Naturally.
VEGETABLE OIL INK
この[illegible]紙を
使用しています。